

FMV
シンクライアント

FMV
LIFEBOOK

FMV- TC8390

製品ガイド

B6FJ-3161-01

本書をお読みになる前に

1 特長

2 各部名称

3 取り扱い

4 周辺機器の設置／
設定／増設

5 ソフトウェア

6 BIOS

7 お手入れ

8 トラブル
シューティング

9 仕様一覧／技術情報

目次

本書をお読みになる前に	8
本書の表記	8
国際エネルギー・スター・プログラム対応	9
商標および著作権について	10

第1章 特長

1 本パソコンの特長	12
運用面、セキュリティ面に優れたシンクライアント	12
内蔵フラッシュメモリへの書き込み保護について	13
2 OSについて	14
Windows Embedded Standardについて	14
管理者権限とユーザーアカウント	14
Windows のパスワード	15
Internet Explorer	15
言語オプションの選択	15
3 セキュリティ	16
BIOS のパスワード	16
無線 LAN のセキュリティ強化	16
Portshutter	17
指紋センサー	17
静脈センサー	18
スマートカードリーダー／ライター	18
盗難防止用ロック取り付け穴	19

第2章 各部名称

1 各部の名称と働き	22
パソコン本体前面	22
パソコン本体上面	24
パソコン本体右側面	25
パソコン本体左側面	27
パソコン本体背面	28
パソコン本体下面	30
2 状態表示 LED	31

第3章 取り扱い

1 保護管理ツールについて	34
初期設定などを変更する	35
2 ポインティングデバイス	37
フラットポイント	37
マウス	40
マウスの接続のしかた	41
マウスの使い方	42
マウス接続時にフラットポイントを有効にする	44
マウス／フラットポイントの設定を変更する	44
3 キーボード	45
キーボード	45
テンキーボード	49
4 バッテリ	50
取り扱い上の注意	50
バッテリを充電する	51
バッテリの残量や消耗状態を確認する	53
バッテリの寿命を延ばす	55
内蔵バッテリパックを交換する	56
廃棄・リサイクルについて	57
5 PC カードスロット	58
取り扱い上の注意	58
PC カードをセットする	58
PC カードを取り出す	60
6 ディスプレイ	62
液晶ディスプレイの明るさを変更する	62
解像度や発色数を変更する	63
全画面表示と通常表示を切り替える	65
7 外部ディスプレイ	66
外部ディスプレイを接続するとできること	66
外部ディスプレイを接続する	66
表示できる解像度と発色数	68
表示するディスプレイを切り替える	70
マルチモニター機能	73
外部ディスプレイの走査周波数	75
8 音量	77
注意事項	77
キーボードで調節する	77
画面上の音量つまみで設定する	77
再生時／録音時の音量設定	78
ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える	80

9 通信	81
LAN (有線 LAN)	81
無線 LAN	82
10 スタンバイ	83
スタンバイとは	83
注意事項	83
スタンバイの使い方	84
スタンバイの設定を変更する	87
11 省電力モード	89
省電力モードとは	89
注意事項	89
省電力モードの使い方	90
省電力モードの設定を変更する	90

第4章 周辺機器の設置／設定／増設

1 周辺機器を取り付ける前に	92
インターフェースのご使用について	92
取り扱い上の注意	92
2 メモリ	93
取り扱い上の注意	93
用意するもの	93
メモリ容量を増やす	94
メモリ容量を確認する	96

第5章 ソフトウェア

1 ソフトウェア	100
ソフトウェア一覧	100
ソフトウェアの紹介	101
2 ドライバーとソフトウェアのインストール	104
リカバリディスクについて (格納ドライバとソフトウェア)	104

第6章 BIOS

1 BIOS セットアップ	108
2 BIOS セットアップの操作のしかた	109
BIOS セットアップを起動する	109
BIOS セットアップ画面	110
各キーの役割	111
設定を変更する	112
BIOS セットアップを終了する	113

3 メニュー詳細	114
「情報」メニュー	115
「システム」メニュー	116
「詳細」メニュー	117
「セキュリティ」メニュー	119
「起動」メニュー	121
「終了」メニュー	122
4 BIOS のパスワード機能を使う	123
パスワードの種類	123
パスワードを設定する	123
パスワードを使う	124
パスワードを忘れてしまったら	125
パスワードを変更／削除する	125
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	127
メッセージが表示されたときは	127
メッセージ一覧	128

第7章 お手入れ

1 パソコン本体のお手入れ	134
パソコン本体	134
ディスプレイ	134
キーボード	135
空冷用通風路	135
2 周辺機器のお手入れ	137
マウス	137

第8章 トラブルシューティング

1 トラブル発生時の基本操作	140
落ち着いて状況を確認する	140
トラブルシューティングで調べる	141
インターネットで調べる	141
診断プログラムを使用する	141
リカバリを行う	142
サポートの窓口に相談する	142
2 よくあるトラブルと解決方法	143
トラブル一覧	143
起動・終了時のトラブル	145
Windows・ソフトウェア関連のトラブル	148
ハードウェア関連のトラブル	149
3 それでも解決できないときは	160
お問い合わせ先	160

第9章 仕様一覧／技術情報

1 本体仕様	162
TC8390	162
2 その他の仕様	165
コネクタのピン配列と信号名	165
国際エネルギーestarプログラム	166
索引	167

Memo

本書をお読みになる前に

本書の表記

本書の内容は2009年11月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「Internet Explorer」をクリックする操作
 ↓
 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Internet Explorer」の順にクリックします。

■ 画面例およびイラストについて

画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 周辺機器の使用について

本文中の操作手順において、CD や DVD などを使用することができます。

操作に必要なドライブなどが搭載されていない場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、ご購入元にご相談ください。
 また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違について

本文中の説明は、標準仕様に基づいて記載しています。

ご購入時にカスタムメイドで仕様を変更した機種の場合は、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
FMV-TC8390	本パソコン／パソコン本体	
Windows® Embedded Standard	Windows Embedded Standard	Windows
Citrix XenApp™/Citrix Presentation Server™	XenApp/Citrix Presentation Server	
Citrix XenDesktop™	XenDesktop	
VMware View™	VMware View	

国際エネルギーestarプログラム対応

当社は、国際エネルギーestarプログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギーestarプログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

詳しくは、「仕様一覧／技術情報」－「国際エネルギーestarプログラム」(→ P.166)をご覧ください。



商標および著作権について

Microsoft、Windows、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel および Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Phoenix は、米国 Phoenix Technologies 社の登録商標です。

Citrix および Citrix Desktop Receiver、Citrix Presentation Server、Citrix XenApp、Citrix XenDesktop は、Citrix Systems, Inc. の米国あるいはその他の国における登録商標です。

VMware および VMware View は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の商標または登録商標です。

Portshutter は、株式会社富士通ソフトウェアテクノロジーズの商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2009

第 1 章

特長

本パソコンの特長について説明しています。

1 本パソコンの特長	12
2 OSについて	14
3 セキュリティ	16

1 本パソコンの特長

運用面、セキュリティ面に優れたシンクライアント

本パソコンは、パソコン本体にハードディスクを搭載していないシンクライアントです。サーバー上にインストールされたソフトウェアを実行し、サーバー上にデータを保管するため、従来のパソコン（ファットクライアント）に比べて次のような特長があります。

■ ユーザー管理やソフトウェア管理がしやすい

- サーバーへのログオンが必須となるため、サーバー側でユーザーを一元管理できます。
- ソフトウェアもすべてサーバーにインストールされるため、ユーザー間でソフトウェアのバージョンが違うなどのトラブルを防げます。また、ソフトウェアの変更やバージョンアップにかかるコストを大幅に削減できます。
- 管理外のソフトウェアの無断インストールを防げます。また、ウイルスなどの対策もサーバー側で一元管理できます。

■ 故障などによるデータ消失のリスクを最小化

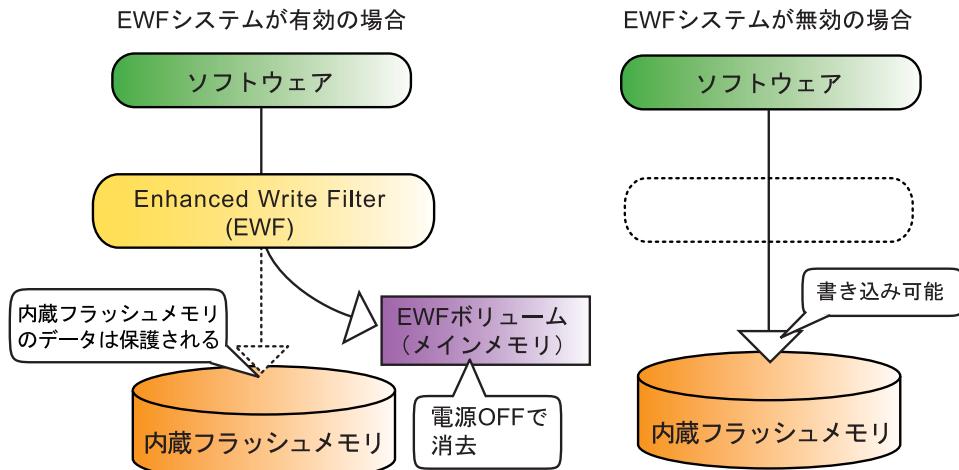
- 各クライアントがハードディスクを搭載していないため、クライアントの故障によるデータの損失がありません。

■ 情報漏えいに強い

- 各パソコンで作成した情報などはすべてサーバー側に保存されるため、万一、本パソコンが盗難に遭った場合でも情報漏えいのリスクがありません。
- フロッピーディスクドライブや光ディスクドライブなどを搭載しておりません。また、外部記憶媒体による情報漏えいを防ぐために、「Portshutter」を使用してUSBメモリやコンパクトフラッシュカードなどの使用を制限できます。
- セキュリティ設定もサーバー側で行うため、セキュリティポリシーの管理・変更などが容易になります。また、個々のクライアント上での設定ミスが防げます。

内蔵フラッシュメモリへの書き込み保護について

本パソコンの OS や環境設定などのシステムデータは内蔵フラッシュメモリに保存されており、Enhanced Write Filter (以降、EWF と略します) システムによって保護されています。EWF は本パソコン特有のシステムで、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが発生した場合に、それらを内蔵フラッシュメモリに書き込む代わりにすべてメインメモリ上の EWF ボリュームに対して書き込みを行うことで、内蔵フラッシュメモリ内のシステムデータを保護します。



この EWF ボリュームへの書き込みは、ソフトウェアなどからは内蔵フラッシュメモリ上のシステムデータに書き込みを行ったのとまったく同じように見えていますが、実際には書き込まれたデータはメインメモリ上に記憶されるため、通常の方法でネットワークなどの設定変更を行った場合、本パソコンを再起動すると初期状態に戻ってしまいます。

本パソコンでは、ネットワークの設定などの初期状態を変更したい場合は、「保護管理ツール」を使用してこの EWF システムを一時的に無効にすることにより、内蔵フラッシュメモリ内のシステムデータに直接書き込むことができます。

「保護管理ツール」については「取り扱い」 – 「保護管理ツールについて」 (→ P.34) をご覧ください。

POINT

- ▶ 電源を切らずにスタンバイ状態にした場合は、EWF ボリュームへの記録内容は保持されます。ただし、スタンバイ状態のまま電源が切れた場合は、EWF ボリュームの内容は消去されますのでご注意ください。

2 OSについて

Windows Embedded Standardについて

本パソコンに搭載されているオペレーティングシステム（OS）は、Windows Embedded Standardです。

Windows Embedded StandardはWindows XP Professionalと同様の操作性をもっていますが、コンポーネント化されたバージョンであるため、目的にあわせて最適な機能のみを実装することができるOSです。本パソコンでは、シンクライアントとしての運用性、安全性のために、必要な機能のみに限定しております。

ご使用にあたっては、富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）の「お使いになる上での注意事項」をご覧ください。

管理者権限とユーザー アカウント

本パソコンのご購入時の設定では、Administrator（コンピュータの管理者）アカウントのみが作成されています。Administratorのパスワードは設定されておりませんので、最初にこのパスワードを設定してください。

その後、必要に応じて新しいアカウントを作成してください。

アカウントの作成方法は次のとおりです。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「ユーザー アカウント」をダブルクリックします。
「ユーザー アカウント」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「新しいアカウントを作成する」をクリックします。

この後はメッセージに従って操作します。

重要

- ▶ 本パソコンは、ご購入時は内蔵フラッシュメモリへの書き込みができないように設定されています。Administratorへのパスワードの設定、ユーザー アカウントの追加はご購入時の状態でも行うことができますが、再起動を行うとそれらの設定は消去されて元に戻ってしまいます。
再起動をしても設定が保存されるようにするには、「保護管理ツール」を使用して EWF システムを一時的に無効にする必要があります。
「保護管理ツール」については「取り扱い」—「保護管理ツールについて」（→ P.34）をご覧ください。

POINT

- ▶ ユーザー アカウントには、「コンピュータの管理者」と「制限付きアカウント」が用意されています。本パソコンを管理される方用に「コンピュータの管理者」、通常業務でお使いになる方用に「制限付きアカウント」をお勧めします。

Windows のパスワード

Windows の起動時やレジューム時、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。

複数のユーザーで 1 台のパソコンを使用する場合、使用するユーザーによってパスワードを変更できます。

パスワードの設定方法は次のとおりです。

1

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「ユーザー アカウント」をダブルクリックします。
「ユーザー アカウント」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「アカウントを変更する」をクリックします。
- 4 パスワードを設定するアカウントをクリックします。
- 5 「パスワードを作成する」または「パスワードを変更する」をクリックします。

この後はメッセージに従って操作します。

Internet Explorer

本パソコンには Internet Explorer が搭載されておりますが、XenApp/Citrix Presentation Server や XenDesktop の Web インターフェースでの使用を主な用途として想定しています。セキュリティの一元管理の観点からも、インターネットの閲覧には「リモートデスクトップ接続」、「Citrix Desktop Receiver」、または「VMware View クライアント」を使用し、サーバー側の Internet Explorer を使用することをお勧めします。

言語オプションの選択

本パソコンは、日本語にのみ対応しています。

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の「地域と言語のオプション」で使用する言語に日本語以外を選択する操作が可能ですが、変更は行わないでください。

重要

- ▶ EWF システムが有効（「保護設定」）になっている状態では、設定後に再起動することによって元の状態に戻すことができますが、EWF システム無効（「保護解除」）の状態で変更してしまうと、以後システムが動作しなくなるなどの不具合の原因となることがあります。管理者の方は充分にご注意ください。
なお、誤って変更てしまいシステムが動作しなくなった場合は、リカバリを実行してください。リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

3 セキュリティ

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

- 「BIOS のパスワード」 (→ P.16)
- 「無線 LAN のセキュリティ強化」 (→ P.16)
- 「Portshutter」 (→ P.17)
- 「指紋センサー」 (→ P.17)
- 「スマートカードリーダー／ライター」 (→ P.18)
- 「静脈センサー」 (→ P.18)
- 「盗難防止用ロック取り付け穴」 (→ P.19)

BIOS のパスワード

● 不正使用防止

コンピューターの起動時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、コンピューターの設定が変更できなくなるなどの制限がつきます。

管理者用のパスワードは本パソコンを管理される方のみが保管し、通常業務でお使いになる方にはユーザー用パスワードのみを通知されることをお勧めします。

詳しくは、「BIOS」 - 「BIOS のパスワード機能を使う」 (→ P.123) をご覧ください。

無線 LAN のセキュリティ強化

対象 無線 LAN 搭載機種

無線 LAN アクセスポイントにセキュリティ機能を設定していないと、無線 LAN の電波が届く範囲内であれば誰でも特別なツールを使わずに、通信内容の傍受、あるいはネットワークに侵入できる可能性があります。無線 LAN をご利用になる場合は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧になり、セキュリティ機能を設定することをお勧めします。

本パソコンには、無線 LAN 使用時のセキュリティ強化機能が搭載されています。

無線 LAN については、『IEEE 802.11a/b/g/n 準拠 内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

Portshutter

● 情報の持ち出し防止

「Portshutter」を使うことにより、USBポートやPCカードなどの接続ポートの使用を制限できます。コンピューターからの情報漏えいやコンピューターへの不正なプログラムの導入を防止することができます。

USBポートやPCカードを無効にする場合、機器ごとに有効・無効の設定が可能です。

詳しくは、添付の「リカバリディスク」にある「VALUEADD\Portshut\Manual\操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

☞ 重要

- ▶ 無効に設定したポートは、機器を接続してもお使いになれません。
- ▶ USB は、接続許可する機器を登録し、それ以外の機器はすべて無効となる設定です。
すべての USB を無効にした場合、指紋センサー、手のひら静脈センサー、USB マウスはお使いになれません。
- ▶ PC カードは、接続許可する機器を登録し、それ以外の機器はすべて無効となる設定です。
すべての PC カードを無効にした場合、スマートカードはお使いになれません。

指紋センサー

- Windows Embedded Standard へのログオン認証
- XenApp/Citrix Presentation Server へのログオン認証
- XenDesktop、VMware View へのログオン認証

対象 指紋センサー搭載機種

指紋センサーで指をスライドすることで個人を認証します。コンピューターとWindowsの起動時、XenApp/Citrix Presentation Server、XenDesktop、またはVMware Viewへのログオン時に指紋認証によるセキュリティを設定できます。従来のパスワード認証に代わりパスワードを覚える必要がなく、個々の指紋の特徴を記憶できるので、簡単に安全に使用できます。

詳しくは、別売の「SMARTACCESS/Premium」のマニュアルをご覧ください。

☞ 重要

- ▶ 指紋センサーをお使いになるには、別売の「Secure Login Box」および「SMARTACCESS/Premium」のライセンスが必要です。
- ▶ 指紋認証は、ネットワークに接続され「Secure Login Box」にアクセス可能な状態でのみ使用できます。ネットワークへの接続前には使用できません。
- ▶ 指紋センサーをひっかいたり、先のとがったもので押したり、濡らしたりしないでください。指紋センサーに傷が付き、故障の原因となることがあります。
- ▶ パソコン本体の使用中、指紋センサー表面が温かくなることがあります、故障ではありません。
- ▶ 指紋センサーが汚れた場合は、除電用金具に触れてから、乾いた柔らかい布でセンサー表面の汚れを軽く拭き取ってください。

静脈センサー

- Windows Embedded Standard へのログオン認証
- XenApp/Citrix Presentation Server へのログオン認証
- XenDesktop、VMware View へのログオン認証

手のひら静脈センサーに手のひらをかざすことで個人を認証します。Windows の起動時、XenApp/Citrix Presentation Server、XenDesktop、または VMware View へのログオン時に手のひら静脈認証によるセキュリティを設定できます。従来のパスワード認証に代わりパスワードを覚える必要がなく、個々の手のひら静脈の特徴を記憶できるので、簡単に安全に使用できます。詳しくは、別売の「SMARTACCESS/Premium」のマニュアルをご覧ください。

重要

- ▶ 手のひら静脈認証をお使いになるには、別売の「Secure Login Box」、「手のひら静脈センサー」、「SMARTACCESS/Premium」のライセンスが必要です。
- ▶ 手のひら静脈認証は、ネットワークに接続され「Secure Login Box」にアクセス可能な状態でのみ使用できます。ネットワークへの接続前には使用できません。
- ▶ 「手のひら静脈センサー」を使用する場合は、「手のひら静脈センサー」のドライバのインストールを行う必要があります。

スマートカードリーダー／ライター

- Windows Embedded Standard へのログオン認証
- XenApp/Citrix Presentation Server へのログオン認証
- XenDesktop、VMware View へのログオン認証

対象 スマートカードホルダー添付機種

Windowsの起動時、XenApp/Citrix Presentation Server、XenDesktop、またはVMware Viewへのログオン時にスマートカード認証によるセキュリティを設定できます。スマートカードにはIDやパスワードなどのセキュリティ情報を格納します。1枚のスマートカードに管理者用とユーザー用のパスワードを、1つずつ設定できます。

コンピューターを使用する場合は、スマートカードをセットし、PIN（個人認証番号）を入力します。スマートカードをセットしないとセキュリティが解除できないため、従来のパスワード認証よりも安全に使用できます。

詳しくは、別売の「SMARTACCESS/Premium」のマニュアルをご覧ください。

重要

- ▶ スマートカードをお使いになるには、別売の「SMARTACCESS/Premium」のライセンスが必要です。
- ▶ PC カードスロットにスマートカードホルダーをセットすることにより使用できます。
詳しくは、「取り扱い」－「PC カードスロット」（→ P.58）をご覧ください。
- ▶ スマートカードをセットするときは、必ずカードの挿入口とスマートカードの向きを確認し、ゆっくり確実にスマートカードをセットしてください。挿入口からはずれた状態でスマートカードを押し込んだり、スマートカードを勢いよく挿入したりすると、スマートカードやスマートカードホルダー、およびパソコン本体を破損するおそれがあります。

盗難防止用ロック取り付け穴

● コンピューターの盗難防止

コンピューターの盗難という危険性があります。コンピューターを鍵のかかる場所に設置または保管するなどの対策をとることもできますが、コンピューター自体にも盗難防止用の機能が備えられています。

本パソコンの盗難防止用ロック取り付け穴に盗難防止用ケーブルを取り付けることができます。ケーブルの端を机や柱などに取り付けることで、パソコン本体の盗難の危険性が減少します。

盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、「各部名称」－「パソコン本体背面」(→ P.28)をご覧ください。

POINT

▶ 弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、ご購入元にご確認ください。

Memo

第 2 章

各部名称

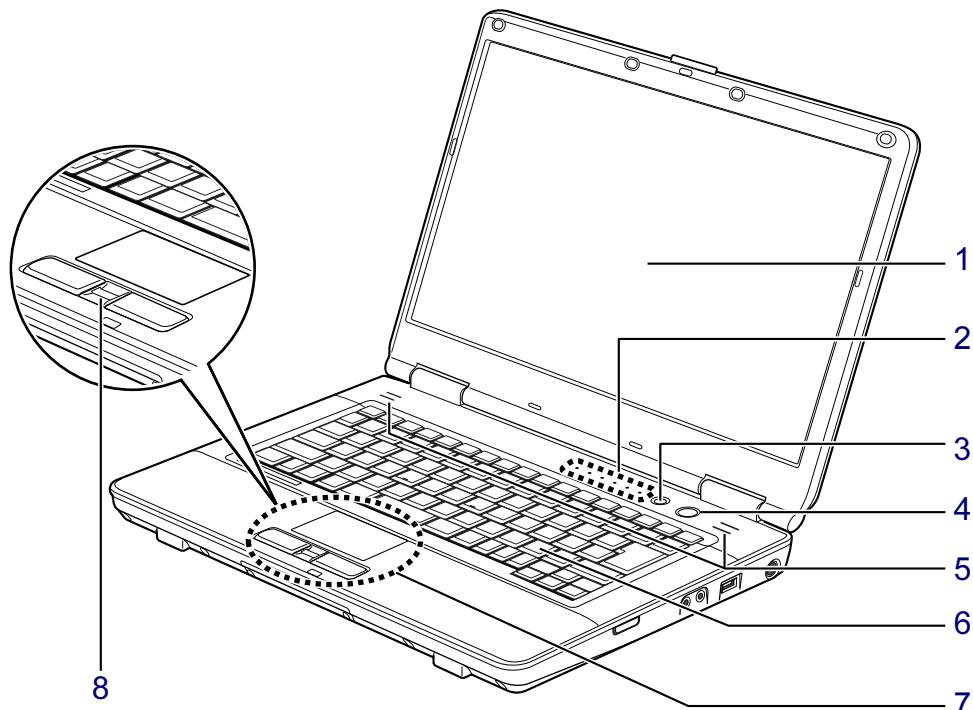
各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き	22
2 状態表示 LED	31

1 各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体各部の名称と働きを説明しています。

パソコン本体前面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 液晶ディスプレイ

POINT

- ▶ 液晶ディスプレイの特性について
液晶ディスプレイには次の特性があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
 - ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
 - ・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

- ・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- 省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプションのプロパティ」から行えます。
- ・表示する条件によってはムラおよび微少なはん点が目立つことがあります。

2

2 状態表示 LED

本パソコンの状態が表示されます。

「状態表示 LED」(→ P.31)

3 Support ボタン

Support ボタンには、次の機能があります。

- ・Windows 起動時

「FMV サポートナビ」が起動します。

本パソコンの情報（型名や製造番号）を確認できます。

省電力状態（スタンバイ）時には「FMV サポートナビ」が起動します。

- ・シャットダウン時

Windows が起動しないときには、「診断プログラム」を実行できます。

4 電源ボタン (○)

パソコン本体の電源を入れたり、省電力状態にしたり、省電力状態から復帰（リジューム）させたりするためのボタンです。パソコンの電源が入っているときは、電源ボタン上の電源ランプが点灯します。また、この他に次の状態を表します。

- ・点滅

スタンバイの状態を表します。

- ・消灯

電源が切れている状態を表します。

POINT

▶ 強制終了をするとき以外は、電源ボタンを 4 秒以上押さないでください。

電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、パソコン本体の電源が切れてしまします。

5 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。

「取り扱い」-「音量」(→ P.77)

6 キーボード

「取り扱い」-「キーボード」(→ P.45)

7 フラットポイント

マウスポインターを操作します。

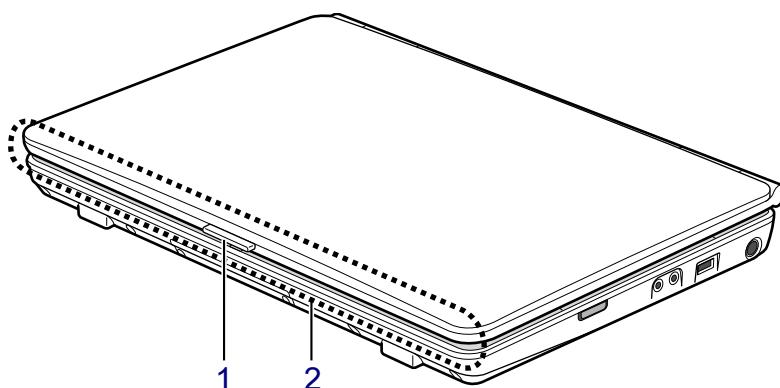
「取り扱い」-「フラットポイント」(→ P.37)

8 指紋センサー（指紋センサー搭載機種のみ）

指紋を識別してユーザー認証を行うことができます。

「セキュリティ」-「指紋センサー」(→ P.147)

パソコン本体上面



(イラストは機種や状況により異なります)

1 ラッチ

液晶ディスプレイが開かないようにロックします。

液晶ディスプレイを開くときは、ラッチを押してロックを外します。

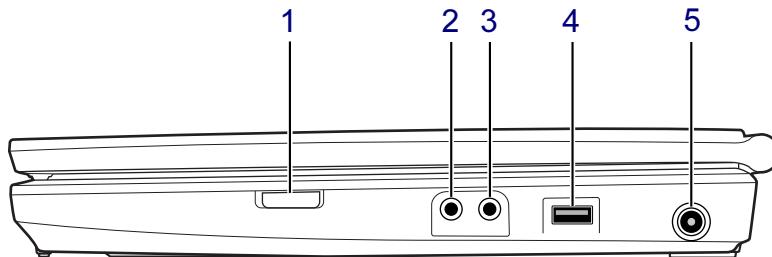
2 内蔵無線 LAN アンテナ（無線 LAN 搭載機種のみ）

無線 LAN 用のアンテナが搭載されています。

本パソコンの使用中、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。

「取り扱い」 - 「無線 LAN」（→ P.82）

パソコン本体右側面



(イラストは機種や状況により異なります)

2

⚠ 重要

- コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。

1 ワイヤレススイッチ（無線 LAN 搭載機種のみ）

無線 LAN による通信機能の ON/OFF を切り替えます。

病院や飛行機内など電子機器使用の規制がある場所では、スイッチを OFF にしてください。

「取り扱い」 - 「無線 LAN」 (→ P.82)

2 ヘッドホン・ラインアウト兼用端子 (○)

市販のヘッドホンを接続します（外径 3.5mm のミニプラグ）。

ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

また、設定を変更することにより、ラインアウト端子として使用することができます。

「取り扱い」 - 「ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える」 (→ P.80)

⚠ 注意



- ヘッドホンやイヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。
耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。



- 電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンやイヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。
突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

3 マイク・ラインイン兼用端子 ()

市販のマイクを接続します (外径 3.5mm のミニプラグ)。

ただし、市販されているマイクの機種 (ダイナミックマイクなど) によっては、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

また、設定を変更することにより、ラインイン端子として使用することができます。

「取り扱い」 - 「ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える」 (→ P.80)

POINT

- ▶ お使いの仮想化ソリューションにより対応状況が異なります。
詳しくはそれぞれの仮想化ソリューションのマニュアルをご覧ください。

4 USB コネクタ ()

USB 接続に対応したマウスなど、USB 規格の周辺機器を接続します。

USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

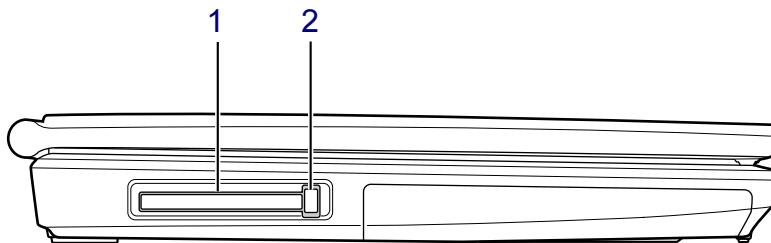
POINT

- ▶ ハブなどを経由してUSB2.0に対応した機器を接続した場合、経由させる機器の性能によっては、接続した機器の性能が低下することがあります。

5 DC-IN コネクタ ()

パソコン本体に添付の AC アダプタを接続します。

パソコン本体左側面



(イラストは機種や状況により異なります)

2

1 PC カードスロット (図)

PC カードをセットします。

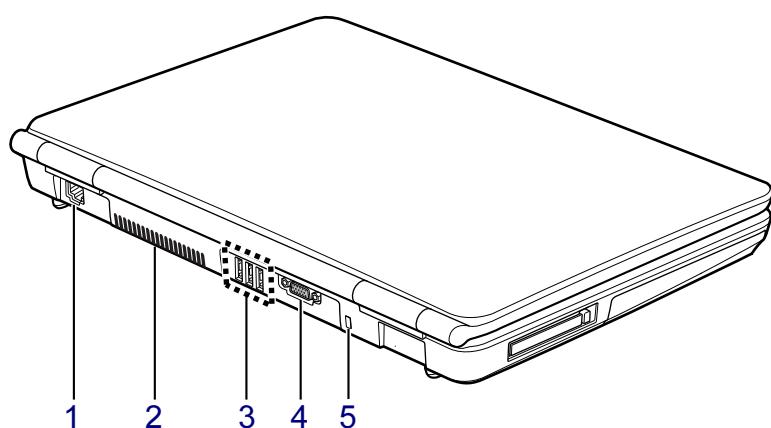
「取り扱い」 - 「PC カードスロット」 (→ P.58)

2 PC カード取り出しボタン

PC カードを取り出すときに押します。

「取り扱い」 - 「PC カードを取り出す」 (→ P.60)

パソコン本体背面



(イラストは機種や状況により異なります)

◀ 重要

- ▶ コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。

1 LAN コネクタ (図)

LAN ケーブルを接続します。

「取り扱い」 - 「LAN (有線 LAN)」 (→ P.81)

2 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。

本パソコンの電源を入れると、内部のファンが数秒間回転します。

また、パソコン本体内部の温度が高くなると内部のファンが回転し、熱が放出されます。このため、起動時や動作中にファンによる回転音が発生しますが、パソコン本体の放熱のためであり、異常ではありません。

△ 注意



- 排気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

◀ 重要

- ▶ 排気孔からは熱風が出ます。排気孔付近には手を触れないでください。
- ▶ 排気孔の近くにものを置かないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれたものが熱くなることがあります。

3 USB コネクタ (●□)

USB 接続に対応したマウスなど、USB 規格の周辺機器を接続します。
USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

POINT

- ▶ ハブなどを経由してUSB2.0に対応した機器を接続した場合、経由させる機器の性能によっては、接続した機器の性能が低下することがあります。

4 外部ディスプレイコネクタ (□)

プロジェクター や アナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続します。

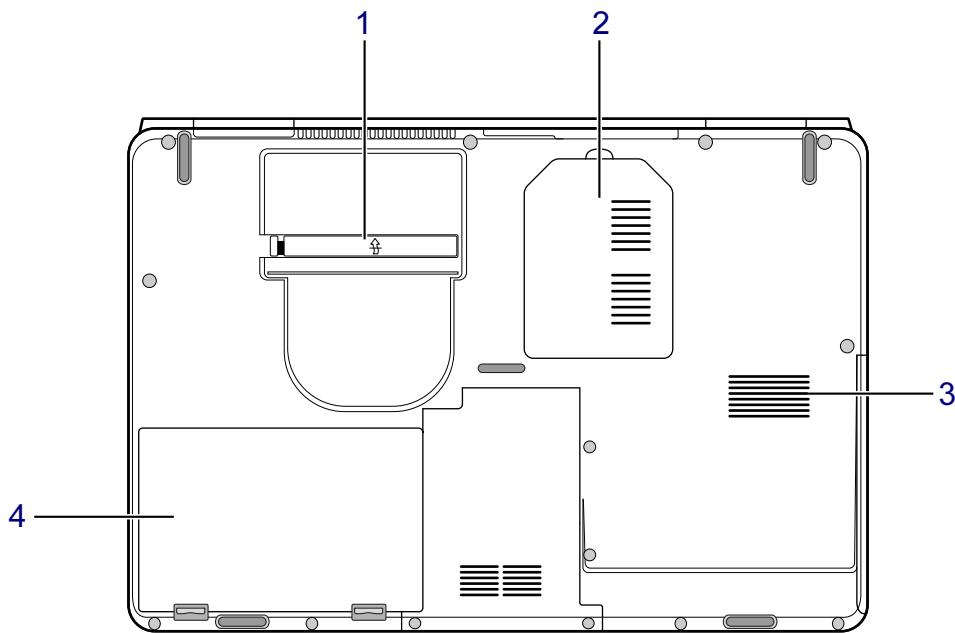
「取り扱い」 — 「外部ディスプレイを接続する」 (→ P.66)
「取り扱い」 — 「マルチモニター機能」 (→ P.73)

5 盗難防止用ロック取り付け穴

盗難防止用ケーブルを取り付けます。

「セキュリティ」 — 「パソコンの盗難防止」 (→ P.151)

パソコン本体下面



1 ダストカバー

空冷用通風路に蓄積したほこりを取りるために、取り外すことができます。
「お手入れ」 - 「空冷用通風路」 (→ P.135)

2 メモリスロット

本パソコンのメモリがセットされています。メモリ容量は増やすことができます。
「周辺機器の設置／設定／増設」 - 「メモリ」 (→ P.93)

3 吸気孔

冷却用の空気を取り込むための穴です。

⚠ 注意



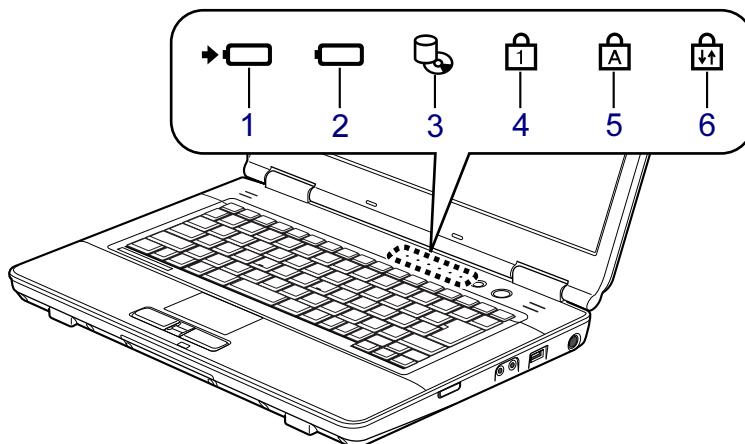
- 吸気孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

4 内蔵バッテリパック

「取り扱い」 - 「バッテリ」 (→ P.50)

2 状態表示 LED

ここでは、状態表示 LED の点灯状態と意味を説明しています。



2

POINT

- ▶ 電源が切れている状態では、状態表示 LED の表示が消灯します。
ただし、AC アダプタを接続している場合は、バッテリ充電ランプが点灯または点滅します。

1 バッテリ充電ランプ (→□)

本パソコンに AC アダプタが接続されている場合に、内蔵バッテリパックの充電状態を表示します。

詳しくは、「取り扱い」 - 「バッテリを充電する」 (→ P.51) の「バッテリの充電状態 (バッテリ充電ランプ)」をご覧ください。

2 バッテリ残量ランプ (□)

本パソコンに接続されている内蔵バッテリパックの残量を表示します。

詳しくは、「取り扱い」 - 「バッテリの残量や消耗状態を確認する」 (→ P.53) の「状態表示 LED のバッテリ残量ランプで確認する」をご覧ください。

3 内蔵フラッシュメモリアクセスランプ (○)

内蔵フラッシュメモリにアクセスしているときに点灯します。

重要

- ▶ 内蔵フラッシュメモリアクセスランプが点灯中に電源ボタンを押すと、内蔵フラッシュメモリのデータが壊れるおそれがあります。

4 Num Lock ランプ (□)

キーボードがテンキー mode のときに点灯します。テンキー mode への切り替えは、【Num Lk】キーで行います。

「取り扱い」 - 「キーボード」 (→ P.45)

5 Caps Lock ランプ (Ⓐ)

アルファベットの大文字入力モードのときに点灯します。

大文字／小文字の入力モードの切り替えは、【Shift】 + 【Caps Lock】キーで行います。

「取り扱い」 - 「キーボード」 (→ P.45)

6 Scroll Lock ランプ (Ⓑ)

画面をスクロールしないように設定（スクロールロック）したときに点灯します。

【Fn】 + 【Scr Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。

点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

「取り扱い」 - 「キーボード」 (→ P.45)

第3章

取り扱い

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

1 保護管理ツールについて	34
2 ポインティングデバイス	37
3 キーボード	45
4 バッテリ	50
5 PC カードスロット	58
6 ディスプレイ	62
7 外部ディスプレイ	66
8 音量	77
9 通信	81
10 スタンバイ	83
11 省電力モード	89

1 保護管理ツールについて

ここでは、「保護管理ツール」を使用して EWF システムを一時的に無効にし、初期設定などの変更を内蔵フラッシュメモリに直接書き込む方法について説明しています。

◀ 重要

- ▶ 「保護管理ツール」は、管理者権限をもったユーザーとしてログオンしている場合のみ使用できます。

■ 保護管理ツールの起動

「保護管理ツール」を起動するには、次のように操作します。

- 1 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
- 2 画面右下の通知領域にある  (保護管理ツール) をダブルクリックします。
「保護管理ツール」 ウィンドウが表示されます。

■ 現在の状態を確認する

「保護管理ツール」を起動すると表示される「保護管理ツール」 ウィンドウの、「現在の状態」で EWF システムの状態を確認できます。

● 保護設定

EWF システムが有効で、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが禁止されている状態です。ソフトウェアなどからの書き込みは、メモリ上の EWF ボリュームに対して行われるため、再起動すると「保護設定」状態で変更した設定はすべて無効になります。
詳しくは、「特長」 – 「内蔵フラッシュメモリへの書き込み保護について」 (→P.13) をご覧ください。

POINT

- ▶ ご購入時は、「保護設定」状態に設定されています。

● 保護解除

EWF システムが無効で、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが可能な状態です。各種設定を変更する場合は、この状態に切り替えます。

初期設定などを変更する

EWFシステムを一時的に無効にし、初期設定などの変更を内蔵フラッシュメモリ内のシステムデータに直接書き込むには、「保護解除」を使用する方法と「反映」を使用する方法があります。

■ 「保護解除」 を使用する

通常はこの方法を使用します。

※ 重要

- ▶ EWFシステムを無効にし、初期設定などを変更した後は、必ず「保護設定」状態に戻し、EWFシステムを有効にしてください。

- 1** 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
- 2** 画面右下の通知領域にある  (保護管理ツール) をダブルクリックします。
「保護管理ツール」 ウィンドウが表示されます。
- 3** 「現在の状態」が「保護設定」になっていることを確認し、「保護解除」をクリックします。
画面の指示に従って操作してください。
- 4** ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。
- 5** 本パソコンを再起動します。
EWFシステムが無効になります。
- 6** 設定の変更を行うユーザーとしてログオンし、必要な設定の変更を行います。
- 7** 設定変更後、手順 6 で管理者権限をもっていないユーザーとしてログオンした場合、管理者権限をもったユーザーとしてログオンし直します。
- 8** 画面右下の通知領域にある  (保護管理ツール) をダブルクリックします。
「保護管理ツール」 ウィンドウが表示されます。
- 9** 「現在の状態」が「保護解除」になっていることを確認し、「保護設定」をクリックします。
画面の指示に従って操作してください。
- 10** ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。
- 11** 本パソコンを再起動します。
EWFシステムが有効になります。

以上で、手順 6 で行った設定が内蔵フラッシュメモリに書き込まれました。

設定が反映されていることを確認してください。

また「保護管理ツール」の「現在の状態」が「保護設定」になっていることを確認してください。

■ 「反映」を使用する

「保護設定」状態で変更した設定を、保護解除をせずに即座に内蔵フラッシュメモリに書き込みみたいときに使用します。

☞ 重要

- ▶ 「反映」を使用する方法では、本パソコンの起動中に変更したすべての設定が内蔵フラッシュメモリに書き込まれます。意図していない設定が書き込まれないためにも、通常は「保護解除」を使用する方法をお勧めします。

- 1 設定の変更を行うユーザーとしてログオンし、必要な設定の変更を行います。
- 2 手順1で管理者権限をもっていないユーザーとしてログオンした場合、管理者権限をもったユーザーとしてログオンし直します。
- 3 画面右下の通知領域にある (保護管理ツール) をダブルクリックします。
「保護管理ツール」ウィンドウが表示されます。
- 4 「現在の状態」が「保護設定」になっていることを確認し、「反映」をクリックします。
画面の指示に従って操作してください。
- 5 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。
- 6 本パソコンを再起動します。

☞ 重要

- ▶ 再起動を行わないと内蔵フラッシュメモリへの書き込みは行われません。
「反映」をクリックした後、必ず本パソコンを再起動してください。

以上で、手順1で行った設定が内蔵フラッシュメモリに書き込まれました。
設定が反映されていることを確認してください。

■ 操作を取り消す

「保護管理ツール」ウィンドウで「保護解除」、「保護設定」、または「反映」をクリックした後、本パソコンを再起動する前に「設定取消」をクリックすることにより、その操作を取り消すことができます。

☞ 重要

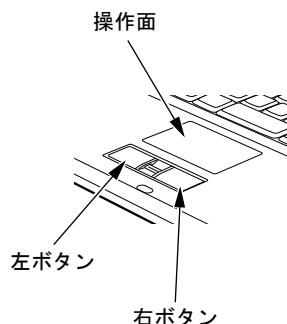
- ▶ 「設定取消」をクリックしても、すでに内蔵フラッシュメモリに書き込まれた変更内容を取り消すことはできません。
- ▶ 本機能は、本パソコンの設定をご購入時の状態に戻すものではありません。

2 ポインティングデバイス

ポインティングデバイスとは、画面上の矢印（マウスポインター）を動かしたり、クリック、ダブルクリック、ドラッグなどの操作をしたりする、マウスやフラットポイントなどのことです。

フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作で、画面上の矢印（マウスポインター）を動かすことのできるポインティングデバイスです。操作面と左右の2つのボタンで構成されています。



(イラストは機種や状況により異なります)

■ 注意事項

- フラットポイントは、その動作原理上、お使いになる方の指先の乾燥度などにより、ポインティング動作に若干の個人差が発生する場合があります。
- フラットポイントは表面の結露、湿気などにより、誤動作することがあります。また濡れた手や汗をかいだ手でお使いになった場合、あるいはフラットポイントの操作面が汚れている場合はマウスポインターが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- ご購入時は、パソコン本体にマウスを接続すると、フラットポイントが無効になるように設定されています。フラットポイントとマウスの同時使用については、「マウスのプロパティ」ウィンドウで設定できます。詳しくは、「マウス接続時にフラットポイントを有効にする」（→ P.44）をご覧ください。

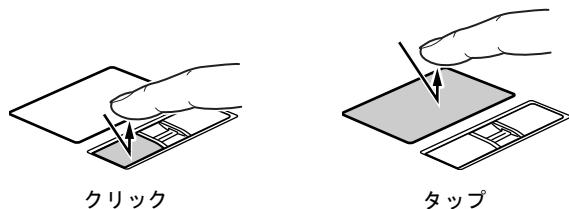
■ フラットポイントの使い方

フラットポイントの操作面でクリックなどの操作を行う場合は、指先で軽く、素早く触れてください。力を入れて行う必要はありません。

マウスポインターは、フラットポイントの操作面をなぞった方向に移動します。操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から離し、適当な場所に指を下ろしてからもう一度なぞってください。

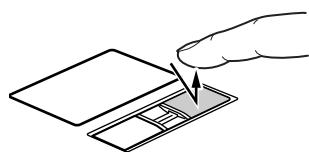
● クリック／タップ

クリックは、左ボタンをカチッと1回押してすぐ離します。タップは、操作面を1回軽くたたきます。



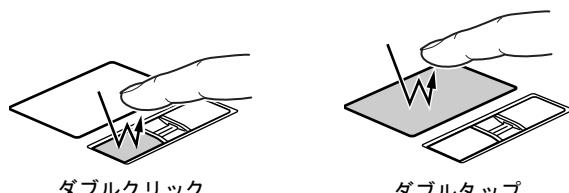
● 右クリック

右ボタンをカチッと1回押して、すぐに離します。



● ダブルクリック／ダブルタップ

ダブルクリックは、左ボタンをカチカチッと2回素早く押してすぐ離します。ダブルタップは、操作面を2回連続して軽くたたきます。



● ポイント

マウスポインターをメニューなどに合わせることを「ポイント」と呼びます。マウスポインターを合わせたメニューの下に階層がある場合は（メニューの右端に▶が表示されています）、メニューが表示されます。

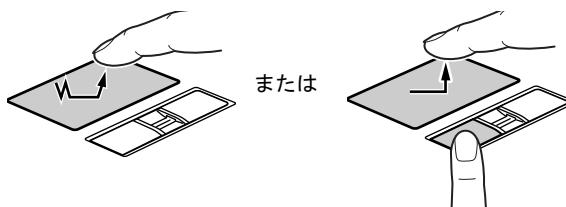


● ドラッグ

アイコンやウィンドウを、マウスポインターで掴むようにして移動させる方法です。「ドラッグ (drag)」とは、「ひきずる」という意味です。

移動させたいアイコンやウィンドウにマウスポインターを合わせてから、操作面を素早く2回軽くたたき、2回目にたたいたときに指を操作面上から離さずに、そのまま指で操作面をなぞると、アイコンやウィンドウを希望の位置まで移動させることができます。

また、アイコンやウィンドウにマウスポインターを合わせてから、左ボタンを押しながら指で操作面をなぞって、アイコンやウィンドウを希望の位置まで移動させる方法もあります。



マウス

対象 USBマウスを選択した場合

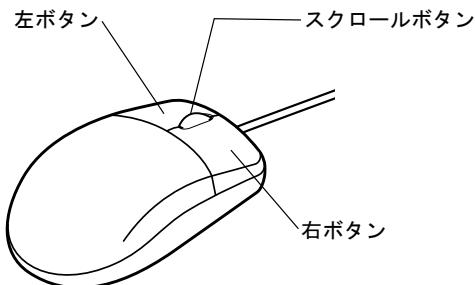
特に断りがない場合は、USBマウス、USBマウス（光学式）、USB小型マウス（レーザー式）をまとめて「USBマウス」と呼んでいます。

■ USBマウス／USBマウス（光学式）／USB小型マウス（レーザー式）

マウスは、定期的にお手入れしてください。

「お手入れ」—「マウス」（→P.137）

お使いになるソフトウェアによっては、スクロールボタンによる画面のスクロールができない場合があります。



（イラストは一般的なマウスを表しており、お使いのマウスとは細部が異なる場合があります）

□ USBマウス（光学式）／USB小型マウス（レーザー式）について

底面からの光により照らし出されている陰影をオプティカル（光学）センサーで検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上だけでなく、衣類の上や紙の上でも使用することができます。

※ 重要

- ▶ オプティカル（光学）センサーについて
 - ・ USBマウス（光学式）は、マウス底面から赤い光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
 - ・ USB小型マウス（レーザー式）は、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
 - ・ センサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
 - ・ 発光部分を他の用途に使用しないでください。

マウスの接続のしかた

■ 注意事項

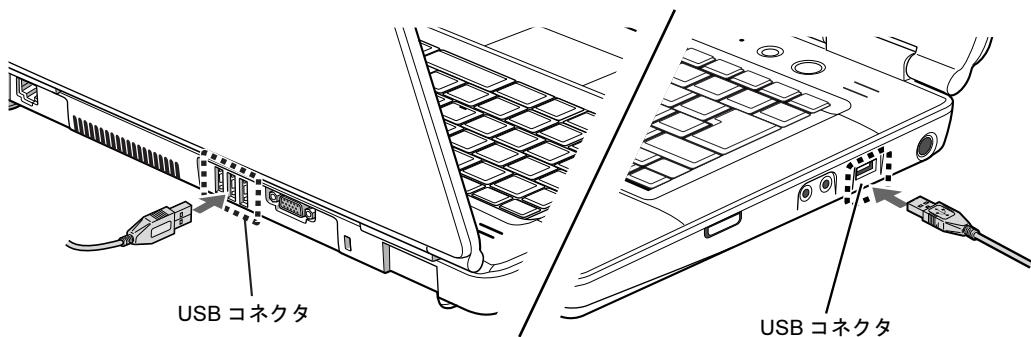
本パソコンにマウスを接続すると、自動的にフラットポイントが使えなくなります。

マウスを接続したときにフラットポイントと併用する場合は、「マウス接続時にフラットポイントを有効にする」(→ P.44) をご覧ください。

■ USB マウス

1 本パソコンの USB コネクタに、USB マウスを接続します。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。



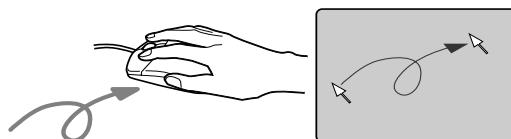
マウスの使い方

■ 注意事項

- USB マウス（光学式）および USB 小型マウス（レーザー式）は、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- USB マウス（光学式）および USB 小型マウス（レーザー式）は、光の陰影でマウスの動きを検知しているため、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

■ マウスの動かし方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手を載せ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、マウスポインターが同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



■ ボタンの操作

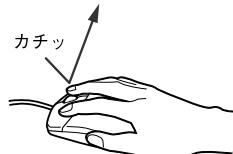
● クリック

マウスの左ボタンをカチッと 1 回押して、すぐに離します。



● 右クリック

マウスの右ボタンをカチッと 1 回押して、すぐに離します。



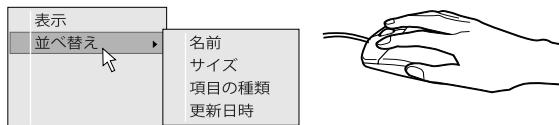
● ダブルクリック

マウスの左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押して、すぐに離します。



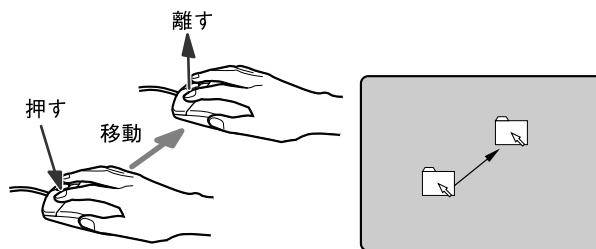
● ポイント

マウスポインターをメニューなどに合わせることを「ポイント」と呼びます。マウスポインターを合わせたメニューの下に階層がある場合は（メニューの右端に▶が表示されています）、メニューが表示されます。



● ドラッグ

アイコンやウィンドウを、マウスポインターで掴むようにして移動させる方法です。「ドラッグ (drag)」とは、「ひきずる」という意味です。移動させたいアイコンやウィンドウにマウスポインターを合わせてから、マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。

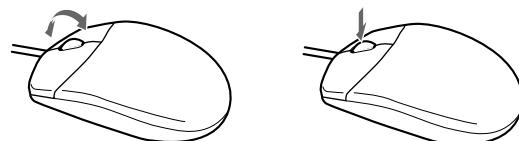


3

● スクロール

ウィンドウ内にあるスクロール領域をクリックしてからスクロールボタンを前後に回すと、ウィンドウ内の表示がスクロールします。

また、第3のボタンとして押して使うこともできます。



マウス接続時にフラットポイントを有効にする

本パソコンにマウスを接続すると、自動的にフラットポイントが使えなくなります。
USBマウスを接続したときにフラットポイントと併用する場合は、次のように設定してください。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「マウス」をダブルクリックします。
「マウスのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「USB マウス接続時の動作」タブの「USB マウスと同時に使用する。」を選択し、
「OK」をクリックします。

□ 【Fn】 + 【F4】 キーで有効／無効を切り替える

フラットポイントと USB マウスを同時に使用する設定をすると、【Fn】 + 【F4】 キーでフラットポイントの有効と無効を切り替えることができます。
キーを押すたびに、フラットポイントの有効と無効が切り替わります。
有効の場合は「Internal pointing device:Enable」
無効の場合は「Internal pointing device:Disable」 と表示されます。

マウス／フラットポイントの設定を変更する

マウスやフラットポイントのボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割は、「マウスのプロパティ」 ウィンドウで変更できます。
また、「マウスのプロパティ」 ウィンドウでは、マウスポインター やダブルクリック、スクロール速度なども変更できます。
「マウスのプロパティ」 ウィンドウを表示するには、次のように操作してください。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「マウス」をダブルクリックします。

3 キーボード

ここでは、キーボードのキーの役割について説明しています。

キーボード

キーボードのキーの役割を説明します。

お使いのソフトウェアによっては、キーの役割が変わることがあります。詳しくは、お使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

枠で囲われている刻印は、[Fn] キーと組み合わせて使う機能です。



■ 主なキーの名称と働き

1 【Esc】 キー

ソフトウェアの実行中の操作を取り消します。

【Ctrl】+【Shift】キーを押しながらこのキーを押すと、「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示され、ソフトウェアを強制終了させることができます。

2 ファンクションキー ([F1] ~ [F12])

【F1】～【F12】までのキーをファンクションキーと呼びます。ソフトウェアごとにいろいろな機能が割り当てられています。

また、【Fn】キーと組み合わせることで、次の働きがあります。

【Fn】 + 【F3】 スピーカーやヘッドホンの ON/OFF を切り替えます。
「キー ボードで調節する」(→ P77)

【Fn】 + 【F4】 フラットポイントの有効と無効を切り替えます (→P44)。

- 【Fn】 + 【F6】 液晶ディスプレイを暗くします。
「液晶ディスプレイの明るさを変更する」 (→ P.62)
- 【Fn】 + 【F7】 液晶ディスプレイを明るくします。
「液晶ディスプレイの明るさを変更する」 (→ P.62)
- 【Fn】 + 【F8】 音量を小さくします。
「キーボードで調節する」 (→ P.77)
- 【Fn】 + 【F9】 音量を大きくします。
「キーボードで調節する」 (→ P.77)
- 【Fn】 + 【F10】 外部ディスプレイを接続した場合に、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替えます。
「表示するディスプレイを切り替える」 (→ P.70)

3 【Num Lk】 キー／【Scr Lk】 キー

- 【Num Lk】 キー テンキーモードに切り替えます。再度押すと解除されます。
「テンキーモード」 (→ P.48)
- 【Scr Lk】 キー 【Fn】 キーを押しながらこのキーを押すと、スクロールをロックします。再度押すと解除します。ソフトウェアによって動作は異なります。

4 【Insert】 キー／【Prt Sc】 キー

- 【Insert】 キー 入力する文字の挿入／上書きを切り替えます。
- 【Prt Sc】 キー 【Fn】 キーを押しながらこのキーを押すと、画面のコピーをクリップボードに取り込みます。
【Fn】 + 【Alt】 キーを押しながらこのキーを押すと、アクティブになっているウィンドウのコピーをクリップボードに取り込みます。

5 【Delete】 キー

- カーソルの右にある文字や選択した範囲の文字、または選択したアイコンやファイルなどを削除します。
- 【Ctrl】 + 【Alt】 キーを押しながらこのキーを押すと、応答しなくなったソフトウェアを終了させたり、パソコンを強制的に終了させたりすることができます。

6 【半角／全角】 キー

- 文字の入力時に、半角／全角を切り替えます。

7 【Caps Lock】 キー

- 【Shift】 キーを押しながらこのキーを押すと、アルファベットの大文字／小文字を切り替えます。
- Caps Lock を ON にすると大文字、OFF にすると小文字を入力することができます。

8 【Shift】 キー

- 他のキーと組み合わせて使います。

9 【Ctrl】 キー

- 他のキーと組み合わせて使います。

10 【Back Space】 キー

- カーソルの左にある文字や選択した範囲の文字を削除します。

11 【Enter】 キー

- 入力した文字を確定したり、文を改行したり、コマンドを実行したりします。
リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

12 カーソルキー (【↑ /Pg Up】【↓ /Pg Dn】【← /Home】【→ /End】)

単独で押すと、カーソルを移動します。

カーソルキーは他のキーと組み合わせることで、次のような使い方ができます。

【Fn】+【← /Home】キー カーソルを行の最初に移動します。

【Fn】+【Ctrl】+【← /Home】キー 文章の最初に移動します。

【Fn】+【↑ /Pg Up】キー 前の画面に切り替えます。

【Fn】+【↓ /Pg Dn】キー 次の画面に切り替えます。

【Fn】+【→ /End】キー カーソルを行の最後に移動します。

【Fn】+【Ctrl】+【→ /End】キー 文章の最後に移動します。

13 【Fn】キー

他のキーと組み合わせて使います。

【Fn】キーを押しながら枠で囲われている刻印のあるキーを押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用することができます。

14 【】(Windows) キー

「スタート」メニューを表示します。

15 【Alt】キー

他のキーと組み合わせて使います。

16 【Space】キー

空白を入力します。

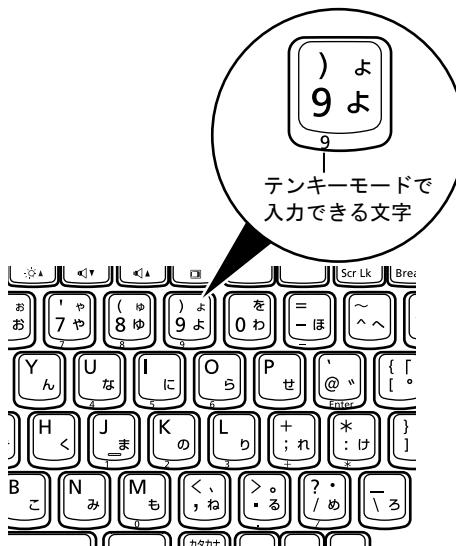
17 【】(アプリケーション) キー

選択した項目のショートカットメニューを表示します。

マウスの右クリックと同じ役割をします。

■ テンキーモード

文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態のことを「テンキーモード」といいます。【Num Lk】キーを押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示 LED の Num Lock ランプが点灯します。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。



POINT

- ▶ 別売のテンキーボードをパソコン本体に接続して【Num Lk】キーを押すと、テンキーボードのテンキーが有効になり、パソコン本体のテンキーは無効になります。
- ▶ BIOS セットアップの「キーボード／マウス設定」で、「起動時の Numlock 設定」を「オン (Fn キー)」に設定すると、【Fn】キーを押しながらパソコン本体のテンキーが使用できるようになります。

テンキーボード

■ USB テンキーボード

パソコン本体のテンキーモードとは別に、USB テンキーボードを接続してテンキーを使用することができます。

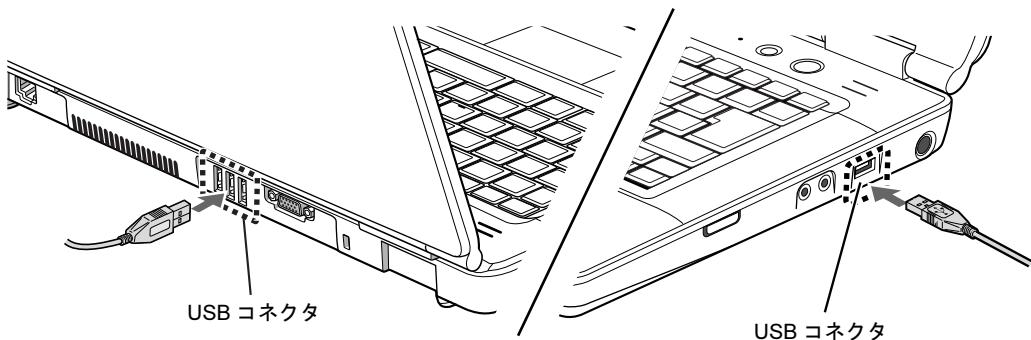
テンキーモードに切り替えるには、USB テンキーボードの【Num Lock】キーを押します。

POINT

- ▶ USB テンキーボードは、パソコン本体の電源を入れてから接続しても、接続してからパソコン本体の電源を入れても、使用することができます。

□ 接続のしかた

USB テンキーボードは、USB コネクタに接続して使用します。



4 バッテリ

本パソコンは、ACアダプタを使わずにバッテリを使って動作させることができます。ここでは、バッテリの充電方法やバッテリでパソコンを使う方法について説明しています。

また、バッテリ残量の確認方法や、バッテリをお使いになるうえで注意していただきたいことについても説明しています。

取り扱い上の注意

内蔵バッテリパックを取り扱うとき、および本パソコンをバッテリで運用するときには、次のことご注意ください。

警告

- バッテリの交換などで、バッテリパックの取り付け、取り外しを行うときは、落としたり、強い衝撃を与えることなくしてください。また、落としたり、強い衝撃を与えたままのバッテリパックは使用しないでください。
感電や火災、バッテリパックの破裂の原因となります。

■ バッテリパックを取り扱ううえでの注意

- バッテリパックは分解しないでください。
バッテリを分解して内部に触れると、感電・火災の原因となります。
 - 長期間（約1ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合
バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。

■ バッテリで運用するときの注意

- 本パソコンの使用中にバッテリの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリの残量や状態に注意してお使いください。
 - 電力を多く使用する作業や、長時間の作業を行う場合は、ACアダプタを接続してください。
 - バッテリの残量を確認する方法については「バッテリの残量や消耗状態を確認する」(→P.53)をご覧ください。
 - バッテリの温度が上昇すると、本パソコンの動作が遅くなる場合があります。その場合には、ACアダプタを接続してください。

■ 次のような場合は、バッテリ残量に注意して使用してください。

- 無線 LAN などのワイヤレス機器を使用するとき
電波の発信に電力を消費します。
 - BIOS セットアップを操作するとき

■ 次のような場合はバッテリ運用を避け、ACアダプタを接続してください。

- LAN やモデムを頻繁に使用するとき
- 本パソコンをご購入時の状態に戻すとき
- PC カードや USB 機器を 2 つ以上同時に取り付けるとき

■ 寿命について

- パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリで運用し、バッテリの状態を確認してください。
- 高温環境に放置した場合、バッテリの消耗、劣化が進みます。
- バッテリは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。その場合は「内蔵バッテリパックを交換する」(→ P.56) をご覧になり、新しいバッテリと交換してください。
- バッテリの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリの寿命です。
- 寿命になったバッテリは、パソコン本体から取り外してください。取り付けたまま放置すると、感電や火災の原因となります。
- 「バッテリーユーティリティ」でバッテリの満充電を 80% にすることで、バッテリの寿命を延ばすことができます。詳しくは、「バッテリの寿命を延ばす」(→ P.55) をご覧ください。

バッテリを充電する

■ 充電する

□ 充電を開始する

1 本パソコンにバッテリがセットされていることを確認します。

2 本パソコンに AC アダプタを接続します。

充電が始まります。充電中は、状態表示 LED のバッテリ充電ランプが点灯し、内蔵バッテリパックの充電状態が表示されます。

□ 充電の完了を確認する

状態表示 LED のバッテリ充電ランプが緑色に変わると完了です。

本パソコンの電源が切れている場合は、充電が完了してしばらくすると、状態表示 LED が消灯します。

■ バッテリを充電するときの注意

- バッテリ残量が 90% 以上の場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。バッテリ残量が 89% 以下になると充電されます。
- バッテリの消耗、劣化が進むと、満充電にならない場合があります。
- 「バッテリーユーティリティ」で「80% 充電モード」に設定した場合、69% 以下になると充電されます。
- 本パソコンをバッテリで運用した直後は、バッテリの温度が上昇しているため、バッテリの保護機能が働いて充電が行われない場合があります（バッテリ充電ランプがオレンジ点滅します）。しばらくして、バッテリの温度が低下すると充電が開始されます。

- パソコンのご購入時、または1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリの残量が少なくなっています。バッテリを充電してからお使いください。
- 充電したバッテリは、お使いにならなくとも少しづつ自然放電していきます。本パソコンをバッテリ運用するときは、直前に充電することをお勧めします。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力は低下します。
- バッテリ稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリ稼働時間が短くなる場合があります。

■ バッテリの充電状態（バッテリ充電ランプ）

本パソコンに AC アダプタが接続されている場合、状態表示 LED のバッテリ充電ランプに、内蔵バッテリパックの充電状態が表示されます。

LED 表示	内蔵バッテリパックの充電状態
オレンジ点灯	充電中
緑色点灯	充電完了または内蔵バッテリパックが取り付けられていない
消灯	AC アダプタが接続されていない
オレンジ点滅	充電停止中（バッテリ温度アラーム時など注） バッテリ充電ランプのオレンジ点滅は、内蔵バッテリパックが熱をもって温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなったりしたときに、バッテリの保護機能が働いて充電を停止していることを表しています。しばらくして内蔵バッテリパックの温度が平常に戻ると、点灯になり充電を再開します。

注：バッテリ温度アラームとは、内蔵バッテリパックが熱をもって温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなったりした場合に、バッテリの保護機能が働いて充電を停止することです。

■ バッテリ充電時間と稼働時間

バッテリの充電時間と稼働時間については、「仕様一覧／技術情報」－「本体仕様」（→ P.162）をご覧ください。

バッテリの残量や消耗状態を確認する

バッテリの残量や状態は、状態表示 LED のバッテリ残量ランプや「バッテリーユーティティ」で確認することができます。

■ 状態表示 LED のバッテリ残量ランプで確認する

バッテリの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LED のバッテリ残量ランプで確認することができます。

状態表示 LED	状態の説明
緑色点灯	バッテリ残量 100%～50%
緑色点滅	バッテリ残量 100%～50%（スタンバイ中）
オレンジ点灯	バッテリ残量 49%～13%
オレンジ点滅	バッテリ残量 49%～13%（スタンバイ中） 内蔵バッテリパック装着後 4 秒間のオレンジ点滅は、バッテリ残量の計測中を表しています。
赤色点灯	バッテリ残量 12%以下 この状態を LOW バッテリ状態といいます。
赤色点滅	バッテリが正しく充電されていない場合は、短い間隔で赤色点滅します。一度パソコン本体の電源を切ってからバッテリを取り外し、もう一度取り付けてください。それでも短い間隔で赤色点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。
消灯	バッテリ未接続時、またはバッテリ残量 0%

POINT

- ▶ バッテリ残量の表示は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により、実際のバッテリ残量とは異なる場合があります。

□ LOW バッテリ状態になったら

バッテリが LOW バッテリ状態になると、状態表示 LED のバッテリ残量ランプ表示が赤色点灯します。すみやかに AC アダプタを接続するか、バッテリ残量の多いバッテリに交換してください。バッテリを交換する場合は、作成中のデータを保存し、動作中のソフトウェアを終了後、本パソコンの電源を切ってから交換してください。また、AC アダプタや交換できるバッテリがない場合も、作成中のデータを保存し、動作中のソフトウェアを終了後、本パソコンの電源を切ってください。

ご購入時の状態では、バッテリ残量が約 3%になつたら、自動的にスタンバイするように設定されています。

■ バッテリーユーティリティで確認する

「バッテリーユーティリティ」では、バッテリの情報を表示したり、消耗状態を測定したりすることができます。

重要

▶ バッテリの消耗状態測定中のご注意

- ・必ずACアダプタを接続してください。測定中はバッテリを取り外さないでください。
- ・バッテリの充電と放電を行うため、測定に10時間以上かかる場合があります。
- ・省電力モードに移行したり、ログオフや再起動、シャットダウンをしたりしないでください。
- ・「電源オプション」の設定を変更しないでください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「FMVサポートナビ」の順にクリックします。

2 「パソコンの情報」タブをクリックし、「バッテリーの情報」アイコンをダブルクリックします。

「バッテリーの情報」ウィンドウが表示されます。

バッテリの消耗状態を測定するには、「バッテリーの消耗状態を測定」をクリックします。

バッテリの寿命を延ばす

本パソコンには、バッテリの満充電量を80%にする「バッテリーユーティリティ」というソフトウェアが搭載されています。「バッテリーユーティリティ」でバッテリの満充電量を80%に設定すると、バッテリの寿命を延ばすことができます。
ご購入時は、「フル充電モード（100%）」に設定されています。

重要

- ▶ 「80%充電モード」に設定すると、稼働時間が「フル充電モード（100%）」よりも短くなります。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「バッテリーユーティリティ」→「バッテリーの設定」の順にクリックします。
「バッテリーの設定」ウィンドウが表示されます。
- 2 「現在のモード」が「フル充電モード（100%充電）」になっていることを確認し、「変更」をクリックします。
- 3 「バッテリー満充電量の設定」ウィンドウで「80%充電モード」を選択し、「OK」をクリックします。
- 4 「バッテリーの設定」ウィンドウで、「OK」をクリックします。

POINT

- ▶ 「80%充電モード」に設定した場合、「充電完了時にメッセージを表示する」にチェックを付けると、充電完了時に充電完了のメッセージが表示されます。

内蔵バッテリパックを交換する

内蔵バッテリパックは、次の手順で交換してください。

■ お使いになれる内蔵バッテリパック

内蔵バッテリパックは、富士通サプライ品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。新しい内蔵バッテリパックは、次の製品をご購入ください。

商品名：Li-ion バッテリパック FM-66c

商品番号：0644690

商品名：Li-ion バッテリパック FM-61c

商品番号：0644550

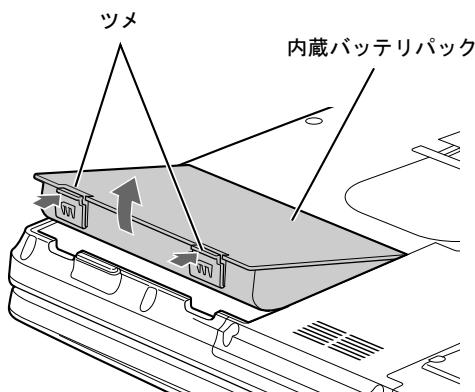
■ 交換する

⚠ 警告



- バッテリパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリパックのコネクタに触れないでください。感電や故障の原因となります。

- 1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。
- 2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 3 バッテリのツメを押しながら、内蔵バッテリパックを取り外します。

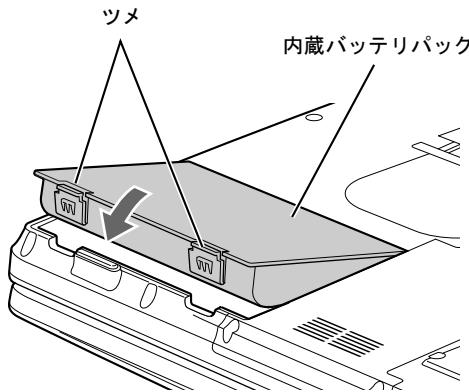


POINT

- ▶ 取り外した内蔵バッテリパックの取り扱いについては、「廃棄・リサイクルについて」(→ P.57)をご覧ください。

4 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

新しい内蔵バッテリパックを斜め上から差し込み、カチッと音がするまでしっかりとはめ込みます。



3

廃棄・リサイクルについて

- バッテリを廃棄する場合は、ショート（短絡）防止のために、バッテリパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。なお、取り外したバッテリパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。
- バッテリパックは、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。
- バッテリパックのリサイクルについては、『取扱説明書』をご覧ください。

5 PC カードスロット

ここでは、PC カードスロットについて説明しています。

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、PC カードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重いものを載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかかるないように注意してください。
- 保管する場合は、必ずケースに入れてください。

※ 重要

- ▶ 本パソコンでは、LAN カードまたはモデムカードが使用できない場合があります。
- ▶ 本パソコンでは、3.3V または 5V を使用する PC カードのみサポートしています。12V を使用する PC カードはサポートしていません。

PC カードをセットする

⚠ 注意



- PC カードをセットまたは取り出すときは、PC カードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

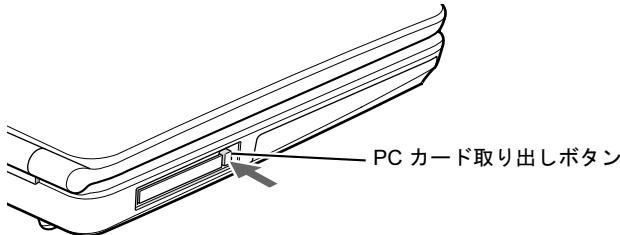
※ 重要

- ▶ PC カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気に より破壊される場合があります。PC カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

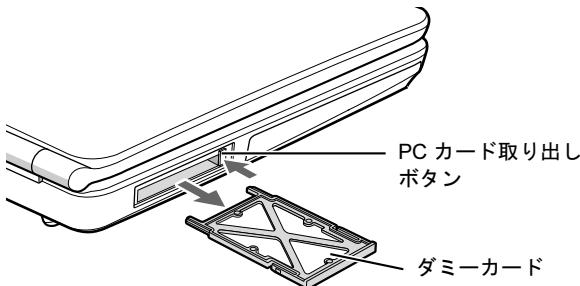
POINT

- ▶ PC カードによっては、パソコン本体の電源を切ってからセットするものがあります。詳しくは、お使いの PC カードのマニュアルをご覧ください。
- ▶ PC カードによっては、ドライバーのインストールが必要なものがあります。お使いの PC カードのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバーをインストールしてください。
- ▶ PC カードや USB 機器を 2 つ以上同時に取り付ける場合には、AC アダプタを接続してください。バッテリで稼働すると、バッテリが劣化します。

- 1 パソコン本体左側面のPC カード取り出しボタンを軽く1回押すと、ボタンが少し飛び出します。



- 2 飛び出した PC カード取り出しボタンを押し、ダミーカードを取り出します。

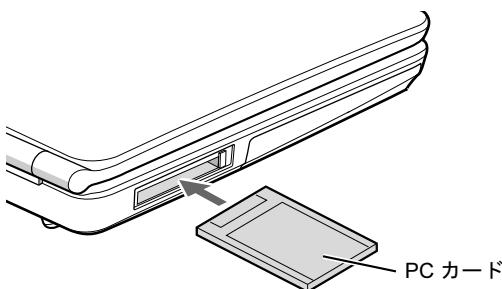


POINT

- 取り出したダミーカードは、なくさないように保管してください。

- 3 PC カードをセットします。

PC カードの製品名を上にして、PC カードスロットに差し込みます。



重要

- PC カード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず中に押し込んでください。PC カード取り出しボタンが飛び出した状態で PC カードをセットすると、ボタンが中に入らなくなり、破損する原因となります。
- PC カードによっては、PC カードスロットから飛び出した状態でセットされるものがあります。PC カードの飛び出した部分をぶつけたりしないでください。破損の原因となります。
- うまくセットできない場合は、一度 PC カードを取り出し、上下が反対になっていないか、差し込む方向が間違っていないかを再度確認してください。また、お使いの PC カードのマニュアルもご覧ください。
- コードやケーブルを接続して使う PC カードをお使いの場合、PC カードとコードやケーブルを接続しているコネクタ部分にものを載せたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。

PC カードを取り出す

⚠ 注意



- PC カードの使用終了直後は、PC カードが高温になっていることがあります。PC カードを取り出すときは、手順 3 の後、しばらく待ってから取り出してください。やけどの原因となることがあります。
- PC カードをセットまたは取り出すときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



☞ 重要

- ▶ PC カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。PC カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

POINT

- ▶ コードやケーブルを接続して使う PC カードを取り出す場合、PC カードのコードやケーブルを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ▶ PC カードは、次の手順に従って取り出してください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ▶ PC カードによっては、パソコン本体の電源を切ってから取り出すものがあります。詳しくは、お使いの PC カードのマニュアルをご覧ください。

1 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

POINT

- ▶ 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をクリックして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。
- ▶ PC カードによっては、画面右下の通知領域に、「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンが表示されないものがあります。アイコンが表示されない場合には、PC カードのマニュアルをご覧ください。

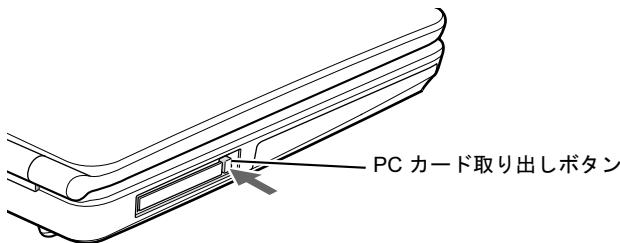
2 「[PC カード] を安全に取り外します」をクリックします。

POINT

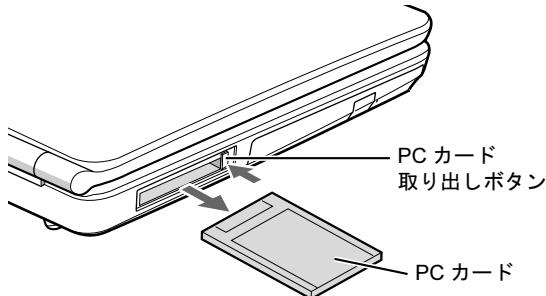
- ▶ 「[PC カード]」には、お使いの PC カードの名称が表示されます。
- ▶ 「[PC カード] の取り外し中にエラーが発生しました」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックし、PC カードにアクセスしていないことを確認した後、手順 1 からやり直してください。

3 「[PC カード] は安全に取り外すことができます。」というメッセージが表示されることを確認します。

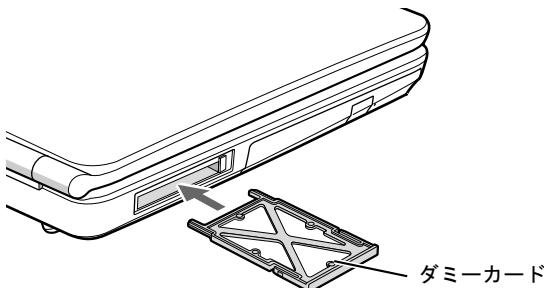
4 PC カード取り出しボタンを軽く 1 回押すと、ボタンが少し飛び出します。



5 飛び出した PC カード取り出しボタンを押し、PC カードを取り出します。



6 ダミーカードを PC カードスロットにしっかりと差し込みます。



重要

- ▶ PC カード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず中に押し込んでください。PC カード取り出しボタンが飛び出した状態でお使いになると、ボタンが破損する原因となります。

6 ディスプレイ

ここでは、パソコン本体の液晶ディスプレイについて説明しています。
外部ディスプレイについては「外部ディスプレイ」(→P.66) または外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

液晶ディスプレイの明るさを変更する

ここでは、液晶ディスプレイの明るさを変更する方法を説明します。
本パソコンは、ACアダプタを使っていているときと、バッテリで使っていているときの液晶ディスプレイの明るさをそれぞれ設定できます。
ご購入時には、ACアダプタで使っていているときに明るくなり、バッテリで使っていているときには暗くなるように設定されています。液晶ディスプレイの明るさは、お使いの環境に合わせて変更してください。
液晶ディスプレイの明るさは、キーボードを使って変更できます。暗くすると、消費電力が小さくなります。また、OS、ドライバーや「IndicatorUtility」によって、それぞれの電源の状態で保存されます。

■ 明るさを変更する

キーボードで液晶ディスプレイの明るさを8段階に変更できます。
【Fn】+【F6】キーを押すと暗く、【Fn】+【F7】キーを押すと明るくなります。
調節中は、画面下部に明るさを示すインジケーターが表示されます。

● 注意事項

- ・次のような場合は、キーボードで明るさを変えられないことがあります。しばらくしてから変更してください。
 - ・本パソコンを再起動した直後
 - ・スタンバイからレジュームした直後
 - ・ACアダプタを取り付けたり、取り外したりした直後
- ・「IndicatorUtility」をアンインストールすると、明るさを示すインジケーターが表示されません。
- ・「IndicatorUtility」をインストールしている場合、Windowsの起動中にACアダプタの取り付けや取り外しを行うと、「画面の明るさが変更されました。」というメッセージが表示されます。ACアダプタ使用時、バッテリ使用時それぞれの状態で、前回設定していた明るさに戻ります。画面の指示に従い操作してください。

解像度や発色数を変更する

ここでは、本パソコンの液晶ディスプレイの、画面の解像度や発色数について説明します。発色数は「16 ビット」が約 6 万 5 千色、「32 ビット」が約 1677 万色です。

■ 表示できる解像度と発色数

□ 15.6 型ワイド (HD (1366×768))

解像度 (ピクセル)	発色数
800×600	16 ビット
	32 ビット ^{注1}
1024×768	16 ビット
	32 ビット ^{注1}
1280×1024 ^{注2}	16 ビット
	32 ビット ^{注1}
1366×768	16 ビット
	32 ビット ^{注1}
1600×1200 ^{注2}	16 ビット
	32 ビット ^{注1}
1920×1200 ^{注2}	16 ビット
	32 ビット ^{注1}

注 1: 液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注 2: 仮想デスクトップになります。

POINT

- 仮想デスクトップでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインターを動かすことによって表示できます。
- この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウの「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

■ 注意事項

- 液晶ディスプレイの解像度以上に解像度を設定する場合、あらかじめ次のように設定してください。なお、画面は仮想デスクトップに表示されます。
 - 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 - 「画面」をダブルクリックします。
 - 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックします。
 - 「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックが外れていることを確認します。

POINT

▶ 「このモニタでは表示できないモードを隠す」の項目が選択できない場合は、この設定は必要ありません。

- 解像度の切り替え時などに、一時的に表示画面が乱れることがあります、故障ではありません。
- 画面の解像度や発色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず本パソコンを再起動してください。

■ 解像度や発色数を変更する

ここでは、本パソコンの液晶ディスプレイの、画面の解像度や発色数を変更する方法について説明します。

重要

▶ 解像度や発色数を変更するときに一時的に画面表示が乱れることがあります、故障ではありません。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「画面」をダブルクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 解像度や発色数を変更します。
16 ビットの発色数に変更する場合は「中 (16 ビット)」を、32 ビットの発色数に変更する場合は「最高 (32 ビット)」を選択します。
- 5 「OK」をクリックします。
「デスクトップのサイズを変更しました。この設定を保存しますか?」というメッセージが表示された場合は、15 秒以内に「はい」をクリックします。

全画面表示と通常表示を切り替える

画面の解像度をご購入時の設定より低く設定すると、ディスプレイ全体に拡大して表示する全画面表示と、ディスプレイ中央に表示する通常表示を切り替えることができます。

■ 注意事項

- 解像度を 1024×768 以下に設定した場合、Windows の画面の通常表示と全画面表示を切り替えることができます。
- コマンドプロンプトの全画面表示は、プライマリのみに表示されます。

■ 切り替え方法

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「Intel(R) GMA Driver for Mobile」をダブルクリックします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」が表示されます。
- 3 ウィンドウ左の「ディスプレイ設定」をクリックします。
- 4 「縦横比のオプション」をクリックします。
「縦横比のオプション」 ウィンドウが表示されます。
- 5 お使いになる設定を選択し、「OK」をクリックします。
 - 縦横比を保持
デスクトップがアスペクト比（縦横比）を維持したまま最大拡張されます。
 - 全画面表示（枠なし）
デスクトップが画面全体に拡張されます。
 - 画像を中央揃え
デスクトップが通常表示になります。この設定は、パソコン本体の液晶ディスプレイの場合のみ選択できます。
- 6 「OK」をクリックします。
「デスクトップの変更を確認」 ウィンドウが表示された場合は、15秒以内に「OK」をクリックしてください。
- 7 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

7 外部ディスプレイ

ここでは、パソコン本体に外部ディスプレイを接続するとできることについて説明しています。

外部ディスプレイの詳しい設定方法などについては、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

外部ディスプレイを接続するとできること

パソコン本体に外部ディスプレイを接続することで、次のことができます。

- 表示するディスプレイを切り替える。
- 2つのディスプレイに同時に表示する。
- 2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する（マルチモニター機能）。

外部ディスプレイを接続する

ここでは、パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、アナログディスプレイを接続する場合について説明します。

⚠ 警告



- 外部ディスプレイの接続、取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。また、外部ディスプレイの電源も切り、電源ケーブルを取り外してください。
感電の原因となります。

⚠ 注意



- ケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となります。

■ 注意事項

- 外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようなことがあります。
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される。
 - ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される。
この場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバーをインストールしてください。

■ 表示可能なディスプレイの組み合わせ

表示可能なディスプレイの組み合わせは次のようにになります。

□ 外部ディスプレイを接続している場合

- 1つのディスプレイに表示する
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイ
 - ・アナログディスプレイ
- 2つのディスプレイに表示する
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイ+アナログディスプレイ

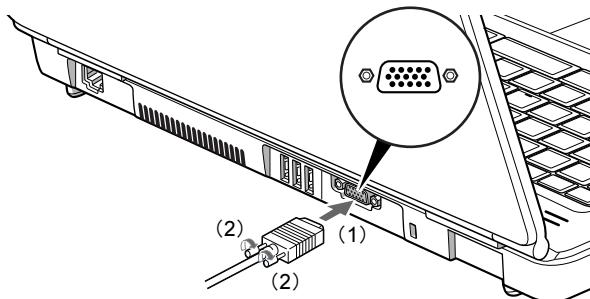
■ アナログディスプレイを接続する

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。

2 パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

コネクタは正面から見ると台形になっています。

(1) コネクタの形を互いに合わせてしっかりと差し込み、(2) ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します。



3 アナログディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。

接続方法は、アナログディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4 アナログディスプレイの電源ケーブルを接続し、ディスプレイの電源を入れます。

5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、パソコン本体の電源を入れます。

表示できる解像度と発色数

■ 外部ディスプレイ

解像度（ピクセル）注1	発色数
800×600	16 ビット
	32 ビット
1024×768	16 ビット
	32 ビット
1280×1024	16 ビット
	32 ビット
1360×768 注2	16 ビット
	32 ビット
1440×900 注2	16 ビット
	32 ビット
1600×1200	16 ビット
	32 ビット
1680×1050 注2	16 ビット
	32 ビット
1920×1200 注2	16 ビット
	32 ビット

注1:各解像度は、お使いの外部ディスプレイがサポートしている場合にご使用になります。

注2:お使いの外部ディスプレイの、パネルの解像度と一致している場合にご使用になります。

■ 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示

解像度（ピクセル） ^{注1}	発色数
800×600	16 ビット
	32 ビット ^{注2}
1024×768	16 ビット
	32 ビット ^{注2}
1280×1024 ^{注3}	16 ビット
	32 ビット ^{注2}
1360×768 ^{注4}	16 ビット
	32 ビット ^{注2}
1440×900 ^{注3注4}	16 ビット
	32 ビット ^{注2}
1600×1200 ^{注3}	16 ビット
	32 ビット ^{注2}
1680×1050 ^{注3注4}	16 ビット
	32 ビット ^{注2}
1920×1200 ^{注3注4}	16 ビット
	32 ビット ^{注2}

注1：各解像度は、お使いの外部ディスプレイがサポートしている場合にご使用になります。

注2：液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注3：液晶ディスプレイでは仮想デスクトップになります。

注4：お使いの外部ディスプレイの、パネルの解像度と一致している場合にご使用になります。

POINT

仮想デスクトップでは、一部の範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインターを動かすことによって表示できます。

設定したい解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウの「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

表示するディスプレイを切り替える

本パソコンに接続した外部ディスプレイに画面を表示する方法と、2つのディスプレイに同時に表示する方法を説明します。なお、外部ディスプレイをあらかじめ取り付けてから切り替えてください。

POINT

- ▶ 外部ディスプレイコネクタに接続した場合、「Fujitsu Display Manager」を起動して、表示するディスプレイを切り替えることもできます。使用方法については、「Fujitsu Display Manager」のヘルプをご覧ください。「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu Display Manager」→「ヘルプ」の順にクリックして表示します。

■ 注意事項

- 表示装置の切り替えの設定は次のようになります。
 - ・ Windows が起動するまでの間は、BIOS セットアップの設定が有効です。
 - ・ Windows の起動中は「画面のプロパティ」ウィンドウの設定が有効（Windows を再起動後も有効）です。
 - ・ Windows が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態に戻ります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。
 - ・ 外部ディスプレイを接続して、初めて電源を入れたときは、同時表示の状態に切り替わる場合があります。
- 解像度の切り替え時などに、一時的に表示画面が乱れることがあります、故障ではありません。
- 外部ディスプレイまたは液晶プロジェクターによっては、液晶ディスプレイ+外部ディスプレイの同時表示時に、画面が正しく表示されないことがあります。
- 外部ディスプレイで液晶ディスプレイ以上の高解像度を利用するには、それらの解像度を表示可能な外部ディスプレイが必要です。
- 液晶プロジェクターを本パソコンの液晶ディスプレイと同時表示で使用する場合、VESA で標準化された DDC の規格を満たしていく、かつ本パソコンの液晶ディスプレイと同じ解像度を表示可能な液晶プロジェクターが必要です。本規格を正しく満たしているかどうかに關しては、それぞれの液晶プロジェクターのメーカーにご確認ください。これはプラグアンドプレイを実現するために外部ディスプレイの情報をパソコン本体に伝送できるようにするための規格であり、これを満たしていない液晶プロジェクターには表示することはできません。
- BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。外部ディスプレイにも BIOS セットアップの画面を表示させる場合には、BIOS セットアップの「詳細」メニュー→「ディスプレイ設定」を「外部ディスプレイ」に設定してください。詳しくは、「BIOS」-「メニュー詳細」（→ P.114）をご覧ください。
- 液晶ディスプレイ+外部ディスプレイの同時表示を選択した場合、外部ディスプレイ画面は液晶ディスプレイ画面と同一の解像度になります。
- 外部ディスプレイとして CRT ディスプレイを接続した場合は、「画面の設定」ウィンドウまたは「画面のプロパティ」ウィンドウでリフレッシュレートを 85Hz 以上に設定できるよう見えますが、実際の CRT ディスプレイの走査周波数は各機種の「外部ディスプレイの走査周波数」（→ P.75）の表以外の周波数を使用することはできません。

- 画面の解像度や発色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず本パソコンを再起動してください。
- 外部ディスプレイを接続した状態で、コマンドプロンプトをウインドウ表示から全画面表示に切り替えると、ディスプレイが切り替わることがあります。また、コマンドプロンプトを終了したときやウインドウ表示に切り替えたときに、ディスプレイが切り替わることがあります。この現象はドライバーおよび Windows での制限（仕様）です。あらかじめご了承ください。
- 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、外部ディスプレイ表示に切り替えたときに何も表示されない、または正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行うようにしてください。
 - ・何も表示されない場合
何も操作しないでお待ちください。15 秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、【Fn】キーを押しながら【F10】キーを押して、表示先を切り替えてください。
 - ・正常に表示されない場合
外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、「外部ディスプレイの走査周波数」（→ P.75）をご覧になり、リフレッシュレートを変更してください。
- 別の外部ディスプレイに変更する場合は、変更前と変更後の両方の外部ディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、パソコンの電源を切った後、別の外部ディスプレイを接続してください。外部ディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、外部ディスプレイを変更したときに、画面が表示できなくなる場合があります。

■ Windows の操作で切り替える

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「Intel(R) GMA Driver for Mobile」をダブルクリックします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」が表示されます。
- 3 ウィンドウ左の「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 4 次の操作を行います。
 - 1台のディスプレイに表示する場合
動作モードから「シングルディスプレイ」を選択します。
 - 同時表示の場合
動作モードから「Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン」を選択します。

POINT

- ▶ 同時表示の場合、「プライマリデバイス」と「セカンダリデバイス」の設定は次のようにしてください。
 - ・液晶ディスプレイと外部ディスプレイの場合
 - プライマリデバイス : ノートブック
 - セカンダリデバイス : PC モニタ
- ▶ 「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、ウィンドウ左の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

- 5 「適用」をクリックします。
「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示された場合は、15秒以内に「OK」をクリックしてください。
- 6 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

■ キーボードで切り替える

表示するディスプレイを切り替えるには、【Fn】+【F10】キーを押します。ディスプレイは次の順に切り替わります。このとき【F10】キーを、間隔をあけて押してください。

- ・液晶ディスプレイ → 外部ディスプレイ → 液晶ディスプレイ+外部ディスプレイ（同時表示）→ 液晶ディスプレイ ...

POINT

- ▶ キーを押してもディスプレイが切り替わらない場合は、「画面の解像度」ウィンドウ、「画面の設定」ウィンドウ、または「画面のプロパティ」ウィンドウで切り替えてください。
- ▶ コマンドプロンプトを全画面表示にしている場合は、【Fn】+【F10】キーを使用してディスプレイを切り替えることができません。一度、ウィンドウ表示に切り替えてからディスプレイを切り替えてください。

マルチモニター機能

本パソコンには、2台のディスプレイで1つのデスクトップを表示できる「マルチモニター機能」があります。パソコン本体の液晶ディスプレイをプライマリ（メイン画面）、外部ディスプレイをセカンダリ（サブ画面）として、1つのデスクトップを表示できます。

■ 表示できる解像度と発色数

マルチモニター機能では、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの解像度を、それぞれ独立して設定できます。ただし、発色数は同じ値を設定してください。また、パソコン本体の液晶ディスプレイはプライマリに、外部ディスプレイはセカンダリに設定してください。

液晶ディスプレイで設定できる解像度と発色数については、「解像度や発色数を変更する」（→ P.63）を、外部ディスプレイで設定できる解像度と発色数については、「表示できる解像度と発色数」（→ P.68）をご覧ください。

■ 注意事項

- マルチモニター機能をお使いになる場合は、メモリを2GBに増設することをお勧めします。
- マルチモニター機能使用時に本パソコンを再起動した場合、使用している外部ディスプレイによっては、画面が正常に表示されないことがあります。このような場合には、リフレッシュレートを85Hz以下に設定してください。
- マルチモニター機能使用時には、【Fn】+【F10】キーを使用して、ディスプレイを切り替えることはできません。
- マルチモニター機能をお使いになる前に、必ず外部ディスプレイを接続してください。
- マルチモニター機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェアを終了してください。
- マルチモニター機能の注意
 - ・2台のディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、プライマリアダプターとセカンドリアダプターの設定を変更しないでください。
 - ・セカンドリアダプターのみに表示されているソフトウェアを起動中に、セカンドリアダプターの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよびWindowsの動作が不安定になります、データが保存されないことがあります。
 - ・次の事項はプライマリアダプターのみで表示されます。
 - ・液晶ディスプレイの全画面表示
 - ・コマンドプロンプトの全画面表示
 - ・一部のスクリーンセーバー
 - ・動画再生画面の全画面表示
 - ・アクセラレータ機能を使用しての動画再生画面

■ マルチモニターの設定

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「Intel(R) GMA Driver for Mobile」をダブルクリックします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」が表示されます。
- 3 ウィンドウ左の「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 4 動作モードから「拡張デスクトップ」を選択します。

POINT

- ▶ マルチモニター表示の場合、「プライマリデバイス」と「セカンダリデバイス」の設定は次のようにしてください。
 - ・プライマリデバイス：ノートブック
 - ・セカンダリデバイス：PC モニタ
- ▶ 「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、ウィンドウ左の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

- 5 「適用」をクリックします。
「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示された場合は、15秒以内に「OK」をクリックしてください。
- 6 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

■ アダプターの表示位置を変更する

ここでは使用する2つのアダプターの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「画面」をダブルクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 モニターのアイコンを、表示する位置にドラッグします。
- 5 「OK」をクリックします。

外部ディスプレイの走査周波数

パソコン本体に外部ディスプレイを接続した場合に、パソコン側でディスプレイドライバーの走査周波数を設定することができます。走査周波数が高いほど、解像度や同時発色数を上げることができます、画面のちらつきを減らすことができます。

ディスプレイドライバーにより、次の表に示されている走査周波数を選択することができます。

選択できる走査周波数は、外部ディスプレイ表示のみの場合も同時表示の場合も同じです。ただし、外部ディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えて、選択し直してください。

解像度（ピクセル） ^{注1}	水平走査周波数（kHz）	垂直走査周波数（Hz）
800×600	37.9	60
	48.1	72
	46.9	75
	53.7	85
1024×768	48.4	60
	56.5	70
	60.0	75
	68.7	85
1280×1024	64.0	60
	80.0	75
	91.1	85
1360×768 ^{注2}	47.7	60
1440×900 ^{注2}	55.9	60
1600×1200	75.0	60
	93.8	75
	106.3	85
1680×1050 ^{注2}	64.7	60
1920×1200 ^{注2}	74	60

注1：各解像度は、お使いの外部ディスプレイがサポートしている場合にご使用になります。

注2：お使いの外部ディスプレイの、パネルの解像度と一致している場合にご使用になります。

■ 注意事項

お使いになる外部ディスプレイによっては、外部ディスプレイ表示に切り替えた場合、画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルでサポートする走査周波数を確認し、「リフレッシュレートを変更する」（→ P.76）をご覧になりリフレッシュレートを変更してから外部ディスプレイ表示に切り替えてください。

■ リフレッシュレートを変更する

リフレッシュレートとは、1秒間に画面を書き換える回数を周波数（単位はHz）で表したもので、垂直走査周波数ともいいます。リフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが感じられなくなります（お使いの外部ディスプレイによって値の上限は決まっています）。ここでは、本パソコンの外部ディスプレイのリフレッシュレートを変更する方法について説明します。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「画面」をダブルクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 リフレッシュレートを変更するモニターのアイコンを選択します。
マルチモニター機能の使用時は、プライマリに設定したモニターのリフレッシュレートを変更したい場合は「1」を、セカンダリに設定したモニターのリフレッシュレートを変更したい場合は「2」を選択します。
- 5 「詳細設定」をクリックします。
- 6 「モニタ」タブをクリックします。
- 7 「画面のリフレッシュレート」で、設定したいリフレッシュレートを選択します。
- 8 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

8 音量

スピーカーやヘッドホンの音量は、キーボード、または画面の音量つまみで調節します。

また、音声入出力時のバランスや音量の設定は、音量を設定するウィンドウで行います。

注意事項

スピーカーが故障する原因となる場合がありますので、音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定や調整をしてください。

3

キーボードで調節する

キーボードで音量を調節するには、【Fn】 + 【F8】キーまたは【Fn】 + 【F9】キーを押します。【Fn】 + 【F8】キーを押すと音量が小さく、【Fn】 + 【F9】キーを押すと音量が大きくなります。音量の調節中、画面下部に音量を示すインジケーターが表示されます。

音量を消したい場合は、【Fn】 + 【F3】キーを押します。

「Mute」と表示され、画面右下の通知領域に表示されるアイコンが変わります。

もう一度【Fn】 + 【F3】キーを押すと、画面下部に現在の音量を示すインジケーターが表示され、音が出るようになります。

画面上の音量つまみで設定する

■ 注意事項

- 画面右下の通知領域に「音量」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
 1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「サウンドとオーディオデバイス」をダブルクリックします。
「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「音量」タブをクリックします。
 4. 「デバイスの音量」の「タスクバーに音量アイコンを配置する」にチェックを付けます。
 5. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
- 音量つまみを表示しているとき、キーボードで音量を調節すると、音量つまみも動きます。

■スピーカーの音量を調節する

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをクリックします。
音量を調節する画面が表示されます。
- 2 音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。
「ミュート」にチェックを付けると音が消え、画面右下の通知領域の表示も変わります。
- 3 デスクトップの何もないところをクリックします。
音量を調節する画面が消えます。
消えなかった場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

再生時／録音時の音量設定

「Master Volume」 ウィンドウで再生時や録音時の音量設定ができます。

■再生時の音量を調節する

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。
「Master Volume」 ウィンドウが表示されます。
- 2 バランスや音量などを調節します。
- 3 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

■録音時の音量を調節する

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。
「Master Volume」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
「プロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「ミキサーデバイス」から「Realtek HD Audio Input」を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。
「Recording Control」 ウィンドウが表示されます。
- 5 バランスや音量などを調節します。
- 6 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

■ ご購入時の音量設定

ご購入時の音量設定は、次のようになっています。

□ 注意事項

- 表示されていない項目を表示させる場合は、次のように設定します。
 1. 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
 2. 「ミキサーデバイス」から次を選択します。
「Realtek HD Audio output」または「Realtek HD Audio Input」
 3. 「表示するコントロール」で、項目にチェックを付けます。
項目が表示されるようになります。

□ 再生時の音量設定

ー：ご購入時の設定はミュートではありません

項目	ご購入時の表示状態	ご購入時の設定	設定する音量
Master Volume	表示	ー	内蔵スピーカー、ヘッドホン・ラインアウト兼用端子の再生音量（ヘッドホン設定時）
Wave	表示	ー	Wave 音源の再生音量
SW Synth	非表示	ミュート	（本パソコンでは使用できません）
CD Player	非表示	ミュート	（本パソコンでは使用できません）
Line Out	非表示	ミュート	（本パソコンでは使用できません）
Line Volume	非表示	ミュート	マイク・ラインイン兼用端子の再生音量（ライン入力設定時）
Microphone	非表示	ミュート	マイク・ラインイン兼用端子の再生音量（マイク入力設定時）
PC Beep	非表示	ミュート	（本パソコンでは使用できません）

□ 録音時の音量設定

項目	ご購入時の表示状態	設定する音量
Microphone	表示	マイク・ラインイン兼用端子の録音音量（マイク入力設定時）
Line Volume	表示	マイク・ラインイン兼用端子の録音音量（ライン入力設定時）
Stereo Mix	非表示	再生音全体の録音音量

ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える

ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、マイク・ラインイン兼用端子は、ご購入時に「ヘッドホン」、「マイク入力」に設定されています。設定を変更することで「ライン出力」、および「ライン入力」として使用することができます。次の手順に従って、設定を変更してください。

■ 注意事項

- ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、マイク・ラインイン兼用端子に外部機器を接続していないときは、切り替えができません。
- マイク・ラインイン兼用端子に外部機器を接続するときは、外部機器の音量を小さくするか、出力を停止してください。
- 次の操作を行うと、ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、マイク・ラインイン兼用端子に機器を接続するだけで、デバイスを選択するウィンドウが自動で表示されます。
 1. 手順4で、「アナログ」の右側にある「コネクタ設定」をクリックします。
「コネクタ設定」ウィンドウが表示されます。
 2. 「デバイスを挿したときのポップアップダイアログを有効にします。」にチェックを付け、「OK」をクリックします。

■ 機能を切り替える

- 1 機能を切り替えたい端子に機器を接続します。
端子については、「各部名称」－「各部の名称と働き」(→ P.22) をご覧ください。
- 2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3 「Realtek HD オーディオ設定」をダブルクリックします。
- 4 「オーディオ I/O」タブをクリックします。
- 5 切り替えたい端子の左側にあるアイコンをクリックします。
「デバイスタイプ」ウィンドウが表示されます。
- 6 使用するデバイスにチェックを付けます。
 - ヘッドホン・ラインアウト兼用端子の場合
ヘッドフォン：ヘッドホン出力として動作します。パソコン本体のスピーカーから音声は出力されません。音量は「Master Volume」で調整します。
ライン出力：ライン出力として動作します。パソコン本体のスピーカーから音声は出力されます。音量は「Line Out」で調整します。
 - マイク・ラインイン兼用端子の場合
ライン入力：ライン入力として動作します。
マイク入力：マイク入力として動作します。
- 7 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

9 通信

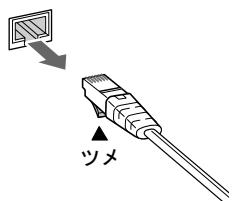
通信機能をお使いになる場合は、ウイルスや不正アクセスからパソコンを守るため、セキュリティ対策を実行してください。詳しくは、「セキュリティ」(→ P.131) をご覧ください。

LAN (有線 LAN)

LAN の設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ 注意事項

- ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします。省電力機能の設定方法については、「スタンバイ」(→ P.83) をご覧ください。省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。また、お使いになるソフトウェアによっては、不具合が発生する場合があります。
- 有線LANと無線LANで、TCP/IPの設定などが競合しないように注意してください。
- ネットワークに接続する場合は、ACアダプタを接続したうえでのご使用をお勧めします。
- LAN コネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。



- 1000BASE-T の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリー 5 (カテゴリー 5E) 以上の LAN ケーブルを使用してください。

⚠ 警告



- 雷が鳴り出したら、パソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。また、雷が鳴り出しそうなときは、AC アダプタやケーブル類を取り外し、雷がやむまで取り付けないでください。
感電・火災の原因となります。またパソコンが故障するおそれがあります。

⚠ 注意



- LAN コネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。
- LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違うと故障の原因となることがあります。

■ LAN ケーブルを接続する

本パソコンには、下記に対応した LAN が搭載されています。

- 10BASE-T (IEEE 802.3 準拠)
- 100BASE-TX (IEEE 802.3u 準拠)
- 1000BASE-T (IEEE 802.3ab 準拠)

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。

2 パソコン本体の LAN コネクタに LAN ケーブルを接続します。

コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。LAN コネクタについては、「各部名称」－「各部の名称と働き」(→ P.22) をご覧ください。

無線 LAN

対象 無線 LAN 搭載機種

ご購入時に無線 LAN を選択した場合は、無線 LAN 機能が搭載されています。

無線 LAN を使うと、LAN ケーブルを使わずにネットワークに接続できます。

無線 LAN については、『IEEE 802.11a/b/g/n 準拠 内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。設定する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

10 スタンバイ

ここでは、本パソコンの省電力機能のうち、スタンバイについて説明しています。

スタンバイとは

スタンバイを使用すると、Windows を終了せずに消費電力を抑えることができます。

スタンバイとは、作業中のデータなどをメモリに保存して、パソコン本体の動作を中断させることです。

スタンバイ中は電源ランプが点滅し、メモリに保存したデータなどを保持するために少しづつ電力を消費します。

電源は、AC アダプタを接続している場合は AC アダプタから、接続していない場合はバッテリから供給されます。

ご購入時の設定では、AC アダプタを接続していない場合にバッテリの残量がなくなると、メモリに保存したデータは失われます。

POINT

▶ スタンバイから作業状態に回復することをレジュームといいます。

3

注意事項

- ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします（→ P.87）。省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。
- 本パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイやレジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイにした後、すぐにレジュームしないでください。必ず 10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 接続している周辺機器のドライバーが正しくインストールされていない場合、スタンバイにならないことがあります。
- レジューム時に、画面に一瞬ノイズが発生する場合があります。
- 次の場合は、スタンバイにしないでください。
 - ・ Windows の起動処理中または終了処理中
 - ・ パソコン本体が何か処理をしている最中（プリンター出力中など）、および処理完了直後
 - ・ ドライバーのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバーのインストールが終了していないとき
 - ・ ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
 - ・ ネットワークで通信中
- 周辺機器の取り付け、取り外しをする場合は、パソコン本体の電源を切ってください。省電力に移行した状態では行わないでください。
詳しくは、周辺機器に添付されているマニュアルをご覧ください。

- 別売の LAN カードをお使いになる場合は、AC アダプタを接続し、「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウで「電源設定」 タブの各項目を「なし」 に設定してください。
- バッテリを使っているときのスタンバイ可能な時間は、新品のバッテリを満充電した状態では、約 1 日です。
- スタンバイ時にはシステムメモリ (RAM) でのデータ保持のために電力を消費します。バッテリ運用の場合は、バッテリ残量に留意してください。スタンバイ中にバッテリが切れるとき、作業中のデータがすべて失われてしまいます。長時間お使いにならない場合は、データを保存してから Windows を終了させ、パソコン本体の電源を切ってください。
- お使いになる PC カードによっては、バッテリ運用時のスタンバイ可能な時間が短くなる場合があります。

スタンバイの使い方

スタンバイにするには、次の方法があります。

ご購入時には、各項目の動作は「スタンバイ」に設定されています。

設定の変更方法については、「スタンバイの設定を変更する」 (→ P.87) をご覧ください。

■ スタンバイにする

□ 一定時間操作しない

ご購入時には、本パソコンは一定時間操作しないと自動的に「スタンバイ」になるように設定されています。

□ 「コンピュータの電源を切る」 ウィンドウを使う

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

「Windows のシャットダウン」 ウィンドウが表示されます。

2 「スタンバイ」を選択します。

しばらくするとスタンバイになります。

□ 電源ボタンを使う

1 状態表示 LED の内蔵フラッシュメモリアクセスランプが点灯していないことを確認し、電源ボタンを押します。
しばらくするとスタンバイになります。

POINT

▶ 電源ボタンは 4 秒以上押さないでください。電源ボタンを 4 秒以上押すと、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

□ 液晶ディスプレイを閉じる

◀ 重要

- ▶ 液晶ディスプレイは静かに閉じてください。
閉じるときに液晶ディスプレイに強い力が加わると、液晶ディスプレイが故障する原因となることがあります。

- 1 状態表示 LED の内蔵フラッシュメモリアクセランプが点灯していないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。
しばらくするとスタンバイになります。

POINT

- ▶ 「電源オプションのプロパティ」ウインドウの「詳細設定」タブで「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の項目を「何もしない」に設定すると、液晶ディスプレイを閉じたときにはスタンバイにしないように設定できます。ただし、「何もしない」に設定した場合は、液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- ▶ 省電力状態になったことを示す「ピピッ」という音を確認してください（ボリュームを小さくしていると聞こえません）。また、液晶ディスプレイを閉じた後、まれにスタンバイにならずにパソコン本体が動作し続けることがあります。放熱が妨げられ、故障の原因になりますので、パソコン本体の動作が停止したかどうかを確認してください。
- ▶ 液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイにならない場合、液晶ディスプレイを開いて電源ボタンを押し、スタンバイになったことを確認してから液晶ディスプレイを閉じてください。
- ▶ ソフトウェアの動作中には、液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイにならない場合があります。ソフトウェアの動作が止まった後で、液晶ディスプレイを閉じてください。

■ スタンバイからレジュームする

レジューム後しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。レジュームには、次の方法があります。

□ 電源ボタンを押す

液晶ディスプレイが開いているときに使用します。

スタンバイからレジュームする場合は、電源ランプが点滅していることを確認してください。

□ 液晶ディスプレイを開く

液晶ディスプレイを閉じて、スタンバイになっている状態で、液晶ディスプレイを開くと、本パソコンがレジュームします。

□ LAN 着信によるレジューム（Wakeup on LAN 機能）

他のコンピューターから本パソコンにコンピューター検索が行われた場合などに、自動的にレジュームさせることができます。ただし、無線 LAN をお使いの場合は、Wakeup on LAN 機能はお使いになれません。

※ 重要

- ▶ 「LAN 着信によるレジューム」の設定をしているときは、スタンバイ中に液晶ディスプレイを閉じないでください。レジューム後に放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- ▶ 「LAN 着信によるレジューム」の設定をしているときは、通常よりも電力を消費するため、AC アダプタを接続することをお勧めします。

Wakeup on LAN 機能を使用する場合は、次のように設定してください。

- 1** 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
- 2** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「システム」をダブルクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「Network adapters」をダブルクリックします。
- 6** 次のデバイスを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 - ・Marvell Yukon 88E8057 PCI-E Gigabit Ethernet Controller
- 7** 「電源の管理」タブをクリックします。
- 8** 次の2つの項目にチェックを付けます。
 - ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする
- 9** 「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。

スタンバイの設定を変更する

省電力機能が働くまでの時間などの設定を変更できます。
LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

■ スタンバイになるまでの時間を変更する

ご購入時には、本パソコンは一定期間操作しないと自動的に「スタンバイ」になるように設定されています。
スタンバイになるまでの時間は、次の手順で変更することができます。

- 1** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
- 2** 「電源オプション」をダブルクリックします。
「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 3** お使いの状況に合わせて、「電源設定」を選択します。
- 4** 「システムスタンバイ」の設定を変更します。
- 5** 「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。

■ 電源ボタンを押したときと、液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能を変更する

パソコン本体の電源ボタンを押したときや、液晶ディスプレイを閉じたときに働く省電力機能は、次の手順で変更することができます。

- 1** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
- 2** 「電源オプション」をダブルクリックします。
「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 3** 「詳細設定」タブをクリックします。
- 4** 「ポータブルコンピュータを閉じたとき」または「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を変更します。
- 5** 「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。

■ スタンバイから復帰するときに Windows のパスワード入力を必須とする設定にする

本パソコンがスタンバイから復帰するときに、Windows に設定してあるパスワードの入力を必須とする設定にすることにより、本パソコンのセキュリティを高めることができます。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「電源オプション」をダブルクリックします。
「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「詳細設定」タブをクリックします。
- 4 「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」にチェックを付けます。
- 5 「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。

11 省電力モード

「省電力ユーティリティ」を利用して本パソコンを「省電力モード」にすると、本パソコンの消費電力を抑えることができます。ここでは、本パソコンの省電力機能の1つである「省電力モード」について説明しています。

省電力モードとは

■ 省電力モードでできること

ご購入時の設定では、Windowsを起動すると、画面右下の通知領域に「省電力ユーティリティ」アイコンが常駐します。この「省電力ユーティリティ」で省電力モードに切り替えると、本パソコンのいくつかの動作が制限され、消費電力が抑えられた状態になります。省電力モードはスタンバイほど消費電力を節約することはできませんが、パソコンの動作を中断しなくても済むという利点があります。

■ ご購入時の設定

ご購入時の設定では、本パソコンを省電力モードにすると、次のような動作制限が行われることにより、消費電力が抑えられます。

- オーディオをミュートする
- 無線 LAN を使用できなくなる（搭載機種のみ）
- PC カードスロットを使用できなくなる
- 有線 LAN を使用できなくなる
- 画面の明るさを暗くする
- ハードディスクの電源を切断するまでの時間を調整する

注意事項

- 省電力モードにすると、「省電力ユーティリティ」で「無効にする」に設定されている各機能が使用できなくなります。
省電力モードにする前にそれぞれの機能の使用を中止してください。
- 省電力モードにすると PC カードスロットが無効になる設定にしている場合は、省電力モードから通常モードに切り替えるときに、必ず PC カードスロットから PC カードを抜いてください。
PC カードを使う場合、省電力モードを通常モードに戻してから再度セットしてください。

省電力モードの使い方

- 1 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコンを右クリックし、「モードの切り替え」をクリックします。

「省電力モードへの切り替え - [省電力ユーティリティ]」ウィンドウが表示されます。

- 2 「OK」をクリックします。

本パソコンが省電力モードになります。

POINT

- ▶ 省電力モードから通常モードに設定を戻す手順は次のとおりです。
 1. 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」アイコンを右クリックし、「モードの切り替え」をクリックします。
「通常モードへの切り替え - [省電力ユーティリティ]」ウィンドウが表示されます。
 2. 「OK」をクリックします。
本パソコンが通常モードになります。

省電力モードの設定を変更する

省電力モードの設定は変更することができます。お使いの状況に合わせて、設定を変更してください。

POINT

- ▶ 設定内容については、「省電力ユーティリティ」のヘルプをご覧ください。「省電力ユーティリティ」のヘルプは、「スタート」ボタン→「プログラム」→「省電力ユーティリティ」→「ヘルプ」の順にクリックして表示します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「省電力ユーティリティ」→「設定画面 - 省電力ユーティリティ」の順にクリックします。

「省電力ユーティリティ設定画面 - 省電力ユーティリティ」ウィンドウが表示されます。

第4章

周辺機器の設置／設定／増設

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

4

1 周辺機器を取り付ける前に	92
2 メモリ	93

1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明しています。

インターフェースのご使用について

本パソコンでは、あらゆる周辺機器の動作を保証するものではありません。ご使用になる周辺機器については、ご購入元にご確認ください。

取り扱い上の注意

● 周辺機器によっては設定作業が必要です

周辺機器の中には、本パソコンに接続した後で設定作業が必要なものがあります。例えば、PCカードを使うには、接続した後にドライバーのインストールが必要な場合があります。

● マニュアルをご覧ください

本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて、周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。

また、ケーブル類の接続は本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

● 純正品をお使いください

弊社純正の周辺機器については、ご購入元にご確認ください。また、FMV シンクライアントのカタログ (<http://www.fmworld.net/biz/> → 「パソコン」 → 「カタログ」 → 「シンクライアント」) のオプション一覧でもご確認いただけます。

他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。

他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせください。

● ACPIに対応した周辺機器をお使いください

本パソコンは ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

● 周辺機器の電源は、本パソコンの電源を入れる前に入れてください

電源を入れて使う周辺機器は、その周辺機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、周辺機器の電源を切るときは、本パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

● 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください

一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。

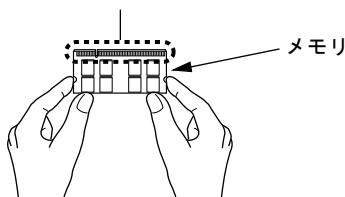
2 メモリ

ここでは、メモリ容量を増やす方法について説明しています。

取り扱い上の注意

- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリは図のように両手でふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

この部分には手を触れないでください



- 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。
- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリの表面の端子やIC部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。

4

用意するもの

■ 本パソコンでサポートしているメモリ

本パソコンでサポートしているメモリをお使いください。

- FMVNM1GK (1GB)

■ プラスドライバー (1番)

ネジに合ったプラスのドライバー1番をお使いください。

他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあるので使用しないでください。

メモリ容量を増やす

⚠ 警告



- メモリの取り付け、取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタや周辺機器を取り外してください。省電力状態（スタンバイ）では、取り付け、取り外しを行わないでください。感電の原因となります。
また、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障したりする原因となることがあります。
- 取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手の届かない所に置いてください。
誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

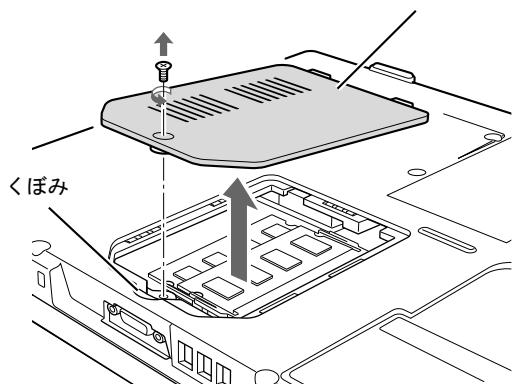
1 バッテリを取り外します。

内蔵バッテリパックの取り外しについては、「取り扱い」－「内蔵バッテリパックを交換する」（→P.56）の手順1～3をご覧ください。

2 メモリスロットカバーを取り外します。

パソコン本体下面（→P.30）のネジを外し、くぼみに指をかけメモリスロットカバーのネジ側を持ち上げて取り外します。

メモリスロットカバー

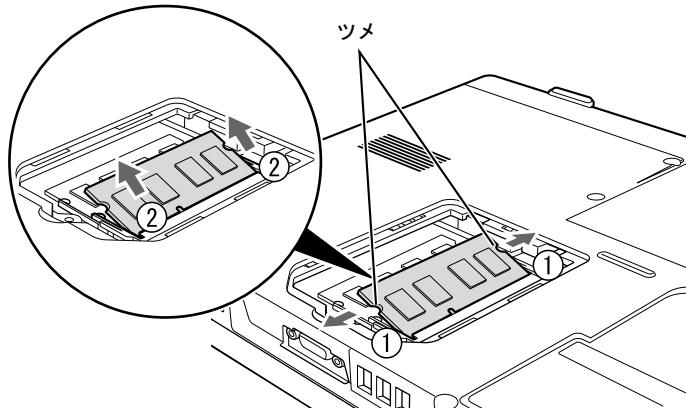


メモリスロットにメモリを取り付ける場合は、手順4をご覧ください。

取り付けられているメモリを新しいメモリに交換する場合は、手順3をご覧ください。

3 交換したいメモリを取り外します。

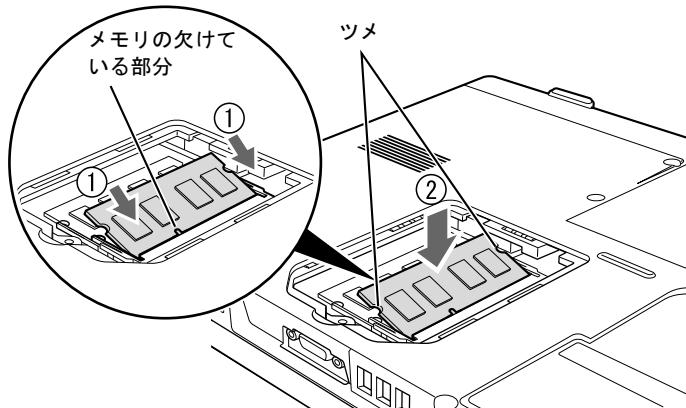
(1) メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、(2) 両手でメモリのふちを持って斜め上の方に引っ張り、メモリスロットからメモリを取り外します。



4 メモリを取り付けます。

(1) 両手でメモリのふちを持って、メモリの欠けている部分とコネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込み、(2) パチンと音がするまで下に倒します。

メモリを押さえている両側のツメが、きちんとまつたことを確認してください。

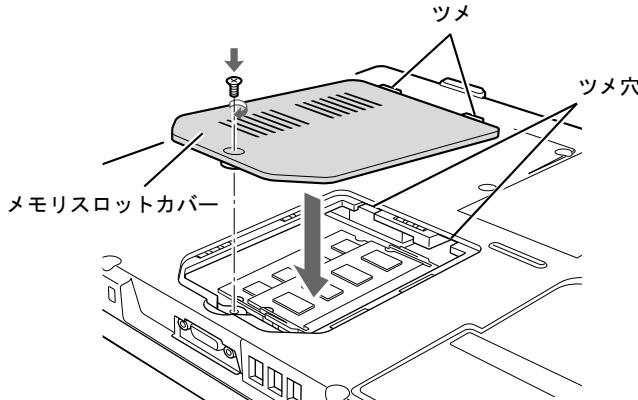


重要

- メモリスロット以外の場所には、手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリの取り付けを行う場合は、端子やICなどに触れないようメモリのふちを持ってください。
- メモリの表面の端子やIC部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから、もう一度メモリを取り付けてください。無理にメモリを取り付けようすると、メモリやコネクタが破損する原因となります。

5 メモリスロットカバーを取り付け、ネジで固定します。

手順2で外したメモリスロットカバーを取り付けます。メモリスロットカバーのツメをパソコン本体のツメ穴に合わせてください。



6 バッテリを取り付けます。

内蔵バッテリパックの取り付けについては、「取り扱い」－「内蔵バッテリパックを交換する」(→P.56) の手順4をご覧ください。

メモリ容量を確認する

メモリを取り付けた後、増やしたメモリが使える状態になっているかを確認してください。
必ず、カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

※ 重要

- メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときにエラーメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源を切り、もう一度メモリを取り付けてください。
- 取り付けが正しいにもかかわらず本パソコンが起動しない場合は、メモリが故障している場合があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
- 本パソコンは、メインメモリの一部をビデオメモリやその他の機能で使用しています。そのため、起動時の自己診断(POST)時や、次の手順で表示されるメモリの容量は、取り付けたメモリの総容量より少なくなります。

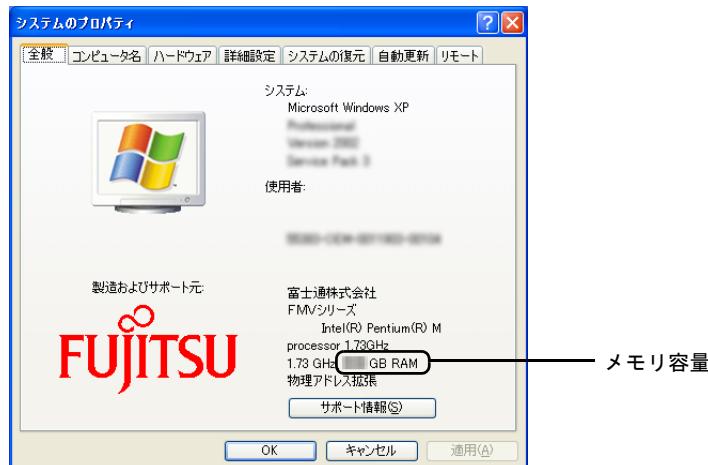
1 パソコン本体の電源を入れます。

2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。 「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3 「システム」をダブルクリックします。 「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 4 次の画面の枠で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えていることを確認します。

メモリ容量の数値が正しくない場合は、メモリがきちんと取り付けられているかどうかを確認してください。



Memo

第5章

ソフトウェア

本パソコンにプレインストール（添付）されているソフトウェアの概要や、インストール方法を説明しています。

5

1 ソフトウェア	100
2 ドライバーとソフトウェアのインストール	104

1 ソフトウェア

ソフトウェア一覧

本パソコンに搭載されている OS と、ご購入時のソフトウェアの一覧です。

- 「Windows Embedded Standard」 (→ P.101)
- 「Internet Explorer」 (→ P.101)
- 「Microsoft IME スタンダード 2002」 (→ P.101)
- 「Windows Media Player」 (→ P.101)
- 「Citrix Desktop Receiver」 (→ P.101)
- 「VMware View Client」 (→ P.101)
- 「リモートデスクトップ接続」 (→ P.102)
- 「保護管理ツール」 (→ P.102)
- 「SMARTACCESS/Premium」 (→ P.102)
- 「Portshutter」 (→ P.102)
- 「FMV サポートナビ」 (→ P.102)
- 「Atheros Client Utility」 (→ P.102)
- 「情報表示ツール」 (→ P.102)
- 「ワンタッチボタン設定」 (→ P.102)
- 「Fujitsu Display Manager」 (→ P.103)
- 「IndicatorUtility」 (→ P.103)
- 「省電力ユーティリティ」 (→ P.103)
- 「バッテリーユーティリティ」 (→ P.103)

ソフトウェアの紹介

■ Windows Embedded Standard

Windows OS のコンポーネント化されたバージョンです。

本パソコンは、Windows Embedded Standard をベースに開発しており、シンクライアント用に最適化しております。

詳しくは、「Windows Embedded Standard について」(→ P.14) をご覧ください。

■ Internet Explorer

WWW (World Wide Web) ブラウザです。

POINT

- ▶ 本パソコンでは、XenApp/Citrix Presentation ServerおよびXenDesktopのWebインターネットでの使用を主な用途と想定しております。セキュリティの一元管理の観点からもインターネットの閲覧の場合には、「リモートデスクトップ接続」、「Citrix Desktop Receiver」、または「VMware Viewクライアント」を使用してのサーバー側Internet Explorer の使用をお勧めします。
- ▶ EWFシステムが無効で内蔵フラッシュメモリへの書き込みが解除された状態では、Internet Explorer よりファイルをデスクトップ上に保存できます。
通常は、「保護管理ツール」においてEWFシステムを有効にし、内蔵フラッシュメモリへの書き込みができないよう「保護設定」状態にしてご使用ください。

■ Microsoft IME スタンダード 2002

日本語入力変換ユーティリティです。

POINT

- ▶ 次の機能はご使用になれません。
IME パッドの「手書き」、「音声入力」機能、システム辞書の「郵便番号辞書」、「単漢字辞書」、「話し言葉・顔文字辞書」、「カタカナ語英語辞書」、「記号辞書」、「文字コード辞書」。

■ Windows Media Player

マルチメディアコンテンツ再生ソフトウェアです。

動画や音声の再生に使用できます。

■ Citrix Desktop Receiver

XenApp/Citrix Presentation Server および XenDesktop に接続するためのソフトウェアです。

サーバー上でソフトウェアや仮想デスクトップを動作させ、本パソコン上には画面情報のみを転送し表示させます。そのため、本パソコンでは実データをもちません。

■ VMware View Client

VMware に接続するためのソフトウェアです。

サーバー上で仮想デスクトップを動作させ、本パソコン上には画面情報のみを転送し表示させます。そのため、本パソコンでは実データをもちません。

■ リモートデスクトップ接続

ターミナルサーバー、または Windows XP Professional を実行している他のコンピューターに接続するソフトウェアです。

■ 保護管理ツール

各種設定を内蔵フラッシュメモリに書き込むためのソフトウェアです。管理者権限でのみご使用になります。

詳しくは、「保護管理ツールについて」(→ P.34) をご覧ください。

■ SMARTACCESS/Premium

指紋センサー、手のひら静脈センサー、スマートカードを使用した Windows ログオン認証などのセキュリティ機能があるソフトウェアです。

◀ 重要

- ▶ 本パソコンの本ソフトウェアには使用権はありません。
ご使用いただく場合は、別途ライセンスをご購入ください。

■ Portshutter

USBポートやPCカードなどの接続ポートを無効にするソフトウェアです。不要な機器を接続させないことにより、情報漏えいを防止できます。

詳しくは、添付の「リカバリディスク」にある「VALUEADD\Portshut\Manual\操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

■ FMV サポートナビ

本パソコンの「診断プログラム」の起動および本パソコンの情報を表示します。
Support ボタンを押すと起動されます。

POINT

- ▶ 「診断プログラム」を実行すると、本パソコンを再起動して、起動メニューを表示します。
起動メニューから本パソコンの診断を行う「診断プログラム」を起動することができます。
- ▶ パソコンの情報を実行すると、本パソコンの情報を表示します。
サポートを受ける場合に必要な情報です。

■ Atheros Client Utility

内蔵無線 LAN のユーティリティです。詳しくは、『IEEE 802.11a/b/g/n 準拠 内蔵無線 LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

■ 情報表示ツール

装置およびシステムの情報を表示します。

■ ワンタッチボタン設定

Support ボタンを押すと「FMV サポートナビ」を起動できるようになります。

■ Fujitsu Display Manager

パソコンの画面表示設定の組み合わせを「プリセット」として保存し、必要に応じて保存した設定を復元することができます。

■ IndicatorUtility

音声ボリューム、内蔵ポインティングデバイスの状態変更が行われた場合は、パソコンの画面上にインジケーターを表示します。また、キーボードで画面の明るさを操作した場合は、パソコン画面上にインジケーターを表示します。

電源の状態（電源に接続、またはバッテリ使用）ごとに、画面の明るさを自動的に記憶する機能をもちます。この機能を使用すると、携帯時に画面の明るさを自動的に暗くすることにより、バッテリ節約に役立てることができます。

■ 省電力ユーティリティ

Windows の稼働中に省電力モードを使用するためのソフトウェアです。省電力モードの設定方法については「取り扱い」－「省電力モード」（→P.89）をご覧ください。

■ バッテリーユーティリティ

バッテリの満充電量を80%に設定したり、バッテリの情報を表示したり、消耗状態を測定したりすることができます。バッテリの満充電量を80%に設定すると、バッテリの寿命を延ばすことができます。詳しくは、「取り扱い」－「バッテリの寿命を延ばす」（→P.55）をご覧ください。

2 ドライバーとソフトウェアのインストール

本パソコンに搭載されている OS では、フロッピードライブや CD/DVD ドライブはお使いになれません。

ドライバーやソフトウェアを本パソコンにインストールするときは、PC メモリカードや CF メモリカード、USB メモリに必要となるファイルをコピーしてから本パソコンにセットし、インストールをしてください。

インストールするとき、セットアッププログラムは、次の手順で起動してください。

1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

cmd. exe

「コマンドプロンプト」が起動します。

3 インストールするドライバーやソフトウェアのセットアップを起動します。

また、ファイルのコピー元を指定するウィンドウが表示された場合、「参照」をクリックしてドライブやパスを指定することはできません。ドライブ名とパスを直接入力してください。

リカバリディスクについて (格納ドライバとソフトウェア)

「リカバリディスク」には次のドライバーとソフトウェアが格納されています。

- 無線 LAN ドライバー
- Portshutter
- ユーザー辞書ユーティリティ

CD/DVD が使用できる Windows パソコンに「リカバリディスク」をセットし、格納されているリストをご覧ください。

本パソコンでは CD/DVD ドライブは使用できませんが、Windows パソコンより USB メモリなどのストレージ媒体を経由することで本パソコンへのインストールが可能になります。

1 本パソコンでインストーラーを起動するためのストレージ媒体を用意します。
・PC メモリカード、CF メモリカード、または USB メモリなど

2 次のものが使用できる Windows パソコンを用意します。
・CD/DVD ドライブ
・お使いになるストレージ媒体に合ったスロット

3 Windows パソコンに、「リカバリディスク」とストレージ媒体をセットします。

4 インストールに使用するドライバーやソフトウェアのフォルダーを、「リカバリディスク」からストレージ媒体にコピーします。

- 5** コピーが完了したら、ストレージ媒体を本パソコンにセットします。
- 6** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 7** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
cmd.exe
「コマンドプロンプト」が起動します。
- 8** インストールするドライバーやソフトウェアのセットアップを起動します。

■ リカバリディスク内のフォルダー構成

□ 無線 LAN ドライバー

- コピーフォルダー
¥VALUEADD¥Atheros
- セットアッププログラム
setup.exe

□ Portshutter

- コピーフォルダー
¥VALUEADD¥Portshut¥Portshutter
- セットアッププログラム
setup.exe

□ ユーザー辞書ユーティリティ

使い方については、コピーフォルダ内の「README.TXT」をご覧ください。

- コピーフォルダー
¥VALUEADD¥FJTools

Memo

第 6 章

BIOS

BIOS セットアップについて説明しています。

1 BIOS セットアップ	108
2 BIOS セットアップの操作のしかた	109
3 メニュー詳細	114
4 BIOS のパスワード機能を使う	123
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	127

1 BIOS セットアップ

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンのご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- ・特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- ・「起動時の自己診断」（POST）で BIOS セットアップをうながすメッセージが表示されたとき

POINT

- ▶ 起動時の自己診断中に、電源を切らないでください。
- ▶ 本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。
これを「起動時の自己診断」（POST : Power On Self Test）といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップ画面を表示させる方法について説明しています。

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、電源が切れた状態から操作を始めてください。

- 1 AC アダプタを接続し、本パソコンの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」ロゴが表示され、画面の下に「マウスをクリックするか、<Enter>を押してください。」と表示されている間に、【Enter】キーを押します。
ポップアップメニューが表示されます。
 - ・Windows が起動してしまった場合は、起動完了後に最初からやり直してください。
 - ・「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」(→ P.119) を「最初のみ」または「毎回」に設定した場合、パスワードを入力後（指紋を登録した場合は指紋認証後）、認証画面が消えた後、すぐに【Enter】キーを押してください。



- 3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「BIOS セットアップ」を選択し、もう一度【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップ画面が表示されます。
パスワードの入力画面が表示された場合は、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。詳しくは、「パスワードを使う」(→ P.124) をご覧ください。

BIOS セットアップ画面

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。



1. メニューバー

メニュー名が表示されます。

2. 設定フィールド

各メニューで設定する、項目と設定値が表示されます。

3. 項目ヘルプ

カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

4. キー一覧

設定時に使うキーの一覧です。

各キーの役割

設定に使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【←】キー、【→】キー	メニュー画面を切り替えます。
【Pg Up】キー、【Pg Dn】キー	メニュー画面が複数ページにわたる場合は、【Fn】キーを押しながらこれらのキーを押すことで、前ページ、または次ページに移動します。
【Home】キー、【End】キー	【Fn】キーを押しながらこれらのキーを押すことで、メニュー画面の最初の項目、または最後の項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。 設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
【F1】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押すと、画面を閉じることができます。
【Alt】+【H】キー	
【F5】キー	各項目の設定を 1 つ前の設定値に変更します。
【-】(二重) キー	
【F6】キー	各項目の設定値を変更します。
【Space】キー	
【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOS セットアップを終了します。
【Esc】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1 つ上のメニュー画面に戻ります。
【Alt】+【X】キー	

設定を変更する

設定はキーボードで変更します。

◀ 重要

- ▶ BIOS セットアップは正確に設定してください。設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを再起動してください。
- ▶ BIOS セットアップの設定項目については、「BIOS セットアップ画面」(→ P.110) の「項目ヘルプ」をご覧ください。

- 1 【←】キーまたは【→】キーを押して、設定したいメニューを選びます。
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、設定したい項目を選びます。
項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
項目名にカーソルを移動して【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。メニュー画面に戻るときは【Esc】キーを押します。
- 3 【Space】キーまたは【-】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。
さらに他の設定項目を変更する場合は、手順 1 ~ 3 を繰り返してください。
- 4 設定を保存して終了します。
終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.113) をご覧ください。

BIOS セットアップを終了する

次の操作を行い、BIOS セットアップを終了してください。

1 【Esc】キーを押します。

「終了」メニューが表示されます。

サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2～3 回押してください。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、終了方法を選択します。

● 変更を保存したい場合

- ・「変更を保存して終了する」

BIOS 終了後に Windows が起動します。

- ・「変更を保存して電源を切る」

BIOS 終了後にパソコンの電源が切れます。

● 設定を変更しないで終了する場合

「変更を保存せずに終了する」を選択します。

BIOS 終了後に Windows が起動します。

3 表示された画面で、【←】キーまたは【→】キーを押して「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップが終了します。

BIOS セットアップ終了後のパソコン動作は、手順 2 で選択した終了方法によって異なります。

3 メニュー詳細

ここでは、BIOS セットアップのメニューについて説明しています。

BIOS セットアップのメニューは次のとおりです。

名称	概要
「情報」メニュー (→ P.115)	BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。
「システム」メニュー (→ P.116)	日時などを設定します。
「詳細」メニュー (→ P.117)	周辺機器などを設定します。
「セキュリティ」メニュー (→ P.119)	本パソコンを特定の人だけが使用できるように設定します。
「起動」メニュー (→ P.121)	本パソコンの起動時の動作について設定します。
「終了」メニュー (→ P.122)	設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

※ 重要

- ▶ BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

POINT

- ▶ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている場合、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

「情報」 メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

型名

カスタムメイド番号

製造番号

BIOS 版数

CPU タイプ

L2 キャッシュ

全メモリ容量

- メモリスロット 1 (標準メモリスロット)
- メモリスロット 2 (増設メモリスロット)

POINT

- ▶ メモリを取り付けていないときは、「未使用」と表示されます。

MAC アドレス

UUID

パネル ID

「システム」メニュー

「システム」メニューでは、日時などを設定します。

システム時刻

システム日付

ドライブ 0

本パソコンでは、設定を変更せずに使いください。

言語 (Language)

POINT

▶ 設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

「詳細」 メニュー

「詳細」 メニューでは、周辺機器などを設定します。

□ キーボード／マウス設定

- 起動時の Numlock 設定

□ ディスプレイ設定

POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」ウィンドウで画面表示を切り替えることができます。詳しくは、「取り扱い」－「ディスプレイ」(→ P.62) をご覧ください。

- ディスプレイ

□ その他の内蔵デバイス設定

- シリアル ATA コントローラ
- 内蔵 LAN デバイス
- 無線 LAN デバイス

POINT

- ▶ お使いのモデルにより、「無線 LAN デバイス」は表示されません。

□ CPU 設定

- XD ビット機能

□ USB 設定

- レガシー USB サポート
 - ・ SCSI サブクラスサポート

POINT

- ▶ 「SCSI サブクラスサポート」を使用して、本パソコンが起動しなくなった場合は、USB デバイスを取り外して再起動してください。
- ▶ FDD ユニット (USB) にセットしたフロッピーディスクから起動する場合は、「レガシー USB サポート」の項目を「使用する」に設定してください (ご購入時の設定)。

□ 各種設定

- 電源ボタン
- LAN によるウェイクアップ
 - ・強制 LAN ブート

※ 重要

- ▶ 「LAN によるウェイクアップ」の設定を「使用する」にしているときは、通常よりも電力を消費するため、AC アダプタを接続することをお勧めします。

- 音量設定
- ハードウェア省電力機能

□ イベントログ設定

- イベントログ領域の状態
- イベントログ内容の状態
- イベントログの表示

POINT

- ▶ イベントログメッセージで、「POST エラー : nnnnnnnnn nnnnnnnnn」というメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。それ以外は、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- イベントログ
 - ・システム起動
- イベントログの消去
- イベントログのマーク

「セキュリティ」 メニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるように設定します。

管理者用パスワード

ユーザー用パスワード

管理者用パスワード設定

POINT

- ▶ 次の項目は、「管理者用パスワード」が設定されている場合に設定することができます。
 - ・ユーザー用パスワード設定
 - ・ユーザー用パスワード文字数
 - ・起動時のパスワード
 - 自動ウェイクアップ時
 - 取外し可能なディスクからの起動
 - BIOS フラッシュメモリへの書き込み
 - スマートカードによるロック
 - 所有者情報
- ▶ お使いのモデルにより、「スマートカードによるロック」は表示されません。

ユーザー用パスワード設定

ユーザー用パスワード文字数

POINT

- ▶ 「ユーザー用パスワード文字数」は、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入った場合のみ有効です。管理者用パスワードで BIOS セットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

起動時のパスワード

- 自動ウェイクアップ時

取外し可能なディスクからの起動

BIOS フラッシュメモリへの書き込み

□スマートカードによるロック

■ 重要

- ▶ 「スマートカードによるロック」を「使用する」に設定すると、次の項目が設定できなくなります。
 - ・管理者用パスワード設定
 - ・ユーザー用パスワード設定
 - ・ユーザー用パスワード文字数

■ POINT

- ▶ お使いのモデルにより、「スマートカードによるロック」は表示されません。
- ▶ 「スマートカードによるロック」は、スマートカードホルダーをセットしている場合のみ表示されます。
- ▶ スマートカードを使用する場合は、別売の「SMARTACCESS/Premium」のマニュアルをご覧ください。

□ハードディスクセキュリティ

本パソコンでは、お使いになれません。

□所有者情報

■ POINT

- ▶ 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は、表示されるだけで選択することはできません。
- 所有者情報
 - 所有者情報設定
 - 文字色
 - 背景色

「起動」メニュー

「起動」メニューでは、本パソコン起動時の動作について設定します。

□ 起動時の自己診断画面

□ 起動メニュー

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「起動」メニューは表示されるだけで選択することはできません。

□ ネットワークサーバからの起動

□ 起動デバイスの優先順位

● 起動デバイスリスト

- 1: Floppy Disk Drive
- 2: Drive0 HDD: [お使いのディスクの名称]
- 3: CD/DVD Drive
- 4: NETWORK: [LAN アダプター]
- 5:
- 6:
- 7:
- 8:

● 除外された起動デバイス

- : USB MEMORY: None
- : USB HDD: None

POINT

- ▶ 使用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。検索順序を変更したり、起動デバイスリストから除外したり、除外された起動デバイスを起動デバイスリストに戻したりすることができます。
- ▶ 「1: Floppy Disk Drive」はポータブルの FDD ユニット (USB) も含まれます。
- ▶ 「3: CD/DVD Drive」はポータブル CD/DVD ドライブも含まれます。
- ▶ 「ネットワークサーバからの起動」が「使用する」に設定されている場合、「4: NETWORK: [LAN アダプター]」と表示され起動デバイスとして検索されます。「使用しない」に設定されている場合は、「4: NETWORK: None」と表示され検索の対象外になります。
- ▶ CD/DVD から起動するには起動可能な OS の入った CD/DVD が必要となります。
再起動前に本パソコンに CD/DVD をセットしてください。

「終了」メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

変更を保存して終了する

設定した内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。

変更を保存せずに終了する

設定した内容を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。

標準設定値を読み込む

すべての項目を標準設定値にします。

重要

- ▶ 次の項目は、「標準設定値を読み込む」を実行しても、現在お使いの状態のまま変更されません。
 - ・管理者用パスワード
 - ・ユーザー用パスワード
 - ・所有者情報
- ▶ 指紋センサー搭載モデルの場合
BIOS セットアップ起動時のユーザー認証画面で、認証タイプを ASCII パスワードに切り替え、パスワードによる認証を行ってください。
指紋による認証では、権限が「ユーザー」となり、「標準設定値を読み込む」を実行できません。

変更前の値を読み込む

すべての項目について、変更前の値を読み込み、変更を取り消します。

変更を保存する

変更した内容を保存します。

変更を保存して電源を切る

変更した内容を保存して、パソコン本体の電源を切ります。

4 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、BIOS セットアップで設定できるパスワードについて説明しています。本パソコンでは、不正使用を防止するために、BIOS セットアップでパスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次のとおりです。

■ 管理者用パスワード

本パソコンのご購入者などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。

■ ユーザー用パスワード

本パソコンの「管理者」以外のユーザーが使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

BIOS のパスワードの設定は、次のとおりです。

■ 起動時のパスワードを設定する

「管理者用パスワード」、「ユーザー用パスワード」を設定する方法を説明します。

「ユーザー用パスワード」は、「管理者用パスワード」を設定した後に設定することができます。

1 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.109) をご覧ください。

2 「セキュリティ」メニューで「管理者用パスワード設定」、または「ユーザー用パスワード設定」を選択して【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 1～32桁のパスワードを入力します。

アルファベットと数字が入力できます。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

ユーザー用パスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」(→ P.119) で設定することができます。

4 パスワードを入力したら、【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力が求められます。

5 手順3で入力したパスワードを再度入力して、【Enter】キーを押します。

「セットアップ通知」ウィンドウが表示されます。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」ウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順3からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

6 【Enter】キーを押します。

7 BIOS セットアップを終了します。

終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.113) をご覧ください。

パスワードを使う

パスワードを設定すると、設定状態により、次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- BIOS セットアップを起動するとき
- 本パソコンを起動するとき

■ BIOS セットアップや本パソコンの起動時のパスワード入力

パスワード入力ウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示され、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源をいったん切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

POINT

- ▶ パスワードを入力する代わりに、指紋センサーやスマートカードを使用して本パソコンの起動時の認証を行うことができます。詳しくは、別売の「SMARTACCESS/Premium」のマニュアルをご覧ください。

パスワードを忘れてしまったら

パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。

パスワードを忘れてしまうと、パスワードの種類によっては、修理（有償）や、最悪の場合データの損失につながるおそれがあります。

パスワードは、何かに書き留めて、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

■ 管理者用パスワードを忘れてしまったら

管理者用パスワードを忘れるとき、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要になります。「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。

修理は保証期間にかかるわらず、有償になります。

■ ユーザー用パスワードを忘れてしまったら

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードを削除することで解除できます。

パスワードを変更／削除する

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するには、次のように操作してください。

1 パソコンの電源を切ります。

2 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.109) をご覧ください。

3 「セキュリティ」メニューで変更したいパスワードを選択し、【Enter】キーを押します。

- ・管理者用パスワード設定
- ・ユーザー用パスワード設定

4 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。

5 1～32桁の新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力が求められます。

6 手順 5 で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」ウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 5 からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

7 【Enter】キーを押します。

 **POINT**

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、電源ボタンを4秒以上押して本パソコンの電源を切ってください。その後、10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

8 BIOS セットアップを終了します。

終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.113) をご覧ください。

■ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順5～6で、何も入力せずに【Enter】キーを押してください。

 **POINT**

- ▶ 「ユーザー用パスワード」を削除できるのは、「ユーザー用パスワード文字数」の設定が0のときだけです。0以外のときは、「パスワード文字数不足」のメッセージが表示されます。

5 BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って操作してください。

1 エラーメッセージの内容を確認します。

「エラーメッセージ」(→ P.128) に同じメッセージがある場合は、エラーメッセージの説明をご覧ください。

2 BIOS セットアップを再起動します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して本パソコンを再起動してください (→ 『取扱説明書』)。

3 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

4 取り外した周辺機器を、1つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1つずつ取り付けて本パソコンを再起動し、動作を確認してください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常、起動時の自己診断（POST）（→ P.108）時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

- ▶ メッセージ中の「n」には数字が表示されます。

■ 正常時のメッセージ

パソコン本体や周辺機器に問題がない場合、BIOS のメッセージは表示されません。正常時に BIOS のメッセージを表示させる場合は、本パソコンを起動して「FUJITSU」ロゴが表示されている間に【Esc】キーを押します。

- Please Wait... お待ちください...
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- nnnnM システムメモリテスト完了。
システムメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- nnnnK メモリキャッシュテスト完了。
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- マウスが初期化されました。
マウス機能がフォーマット（初期化）され、フラットポイントが使えるようになったことを示しています。

POINT

- ▶ 正常時のメッセージを常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」（→ P.121）の項目を「使用する」に設定してください。

■ エラーメッセージ

本書に記述されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- 拡張メモリエラー。アドレス行 : nn
メモリのテスト中に、アドレス nn でエラーが発見されたことを示しています。
メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品であるかどうかを確認してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- キーボードエラーです。
キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- キーボード接続エラーです。
キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。
テンキー ボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかどうかを確認し、電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- **ディスクのエラーです。: ハードディスク n**
内蔵フラッシュメモリの設定にエラーがあることを示しています。
BIOS セットアップを起動し、「システム」メニューの「ドライブ n」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **システムタイマーのエラーです。**
システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **リアルタイムクロックのエラーです。**
リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定されました。**
CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだ後、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられます。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。**
前回の起動時に正しく起動されなかつたため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
起動途中に電源を切ってしまった、BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかつた、または 3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。
- **< F1 >キーを押すと継続、< F2 >キーを押すと BIOS セットアップを起動します。**
起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- **日付と時刻の設定を確認してください。**
日付と時刻の設定値が正しくありません。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- **NVRAM データが正しくありません。**
NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **サーマルセンサエラー。システムの電源が切れます。**
温度制御系の設定が正しく行えなかつたことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- **ファンエラー。システムの電源が切れます。**
冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● **前回の起動中にサーマルセンサエラーが発生しました。**

前回の起動時にサーマルセンサエラーが発生したことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● **前回の起動中にファンエラーが発生しました。**

前回の起動時にファンエラーが発生したことを示しています。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● **Invalid system disk**

Replace the disk, and then press any key

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

● **Non-System disk or disk error**

Replace and press any key when ready

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

● **NTLDR is missing**

Press any key to restart

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

● **Remove disks or other media.**

Press any key to restart

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

● **Operating system not found**

OS が見つからなかったことを示しています。

BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいかどうか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかどうかを確認してください。

● **PXE-E61:Media test failure, Check cable**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

● **PXE-E53:No boot filename received**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーから、起動時に必要な IP アドレスまたは boot filename を取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

● **PXE-E78:Could not locate boot server**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

● **PXE-E89:Could not download boot image**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

● **PXE-E32:TFTP open timeout**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

● **スマートカードが挿入されていません。**

スマートカードがセットされていないときに表示されます。

● **入力された PIN は間違っています。**

PIN の入力を間違えたときに、PIN を入力できる残り回数を表示します。

● **入力された PIN は間違っています。**

PIN を入力できる残り回数が 1 回のときに表示されます。

● **スマートカードに接続できませんでした。**

スマートカードに異常がある場合に表示されます。この場合、スマートカードが正常にセットされているか、カードに損傷がないか確認してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● **このスマートカードは使用できません。**

読み取りに必要な情報がないときに表示されます。この場合、別売の「SMARTACCESS/Premium」のマニュアルをご覧になり、正常なカードをお使いになるか、ログオン情報を登録してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● **システムは使用できません。**

スマートカードに登録されている BIOS ロック用パスワードが、BIOS セットアップで設定した管理者用パスワードおよびユーザー用パスワードのどちらとも一致しない場合に表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。

● **このスマートカードはロックされました。**

スマートカードがロックされたときに表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。

● **このスマートカードはロックされています。**

スマートカードがすでにロックされているときや、読み取りに必要な情報がロックされているとき、アクセス権がないときに表示されます。この場合、パソコン本体の電源を切ってください。

Memo

第7章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

1 パソコン本体のお手入れ	134
2 周辺機器のお手入れ	137

1 パソコン本体のお手入れ

ここでは、パソコン本体のお手入れについて説明しています。

パソコン本体

⚠ 警告



- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、必ず次の事項を行うようにしてください。
 - ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
 - ・周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。
- 清掃のときは、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。故障・火災の原因となります。



パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。また、中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。拭き取るときは、パソコン本体に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

ディスプレイ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。

⚠ 重要

- ▶ 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- ▶ 液晶ディスプレイの背面を手で支えてください。パソコンが倒れるおそれがあります。
- ▶ 液晶部分を拭くときは、必ずから拭きしてください。水や中性洗剤を使うと、液晶部分を傷めるおそれがあります。
- ▶ 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
 - ・アルカリ性成分を含んだもの
 - ・界面活性剤を含んだもの
 - ・アルコール成分を含んだもの
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・研磨剤を含むもの

キーボード

キーボードの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。また、中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。拭き取るときは、キーボード内部に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

重要

- ▶ 清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。
- ▶ キーボードのキーとキーの間のほこりなどを取る場合、次の点にご注意ください。
 - ・ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
 - ・ほこりなどを取るときは、柔らかいブラシなどを使って軽くほこりを取り除いてください。その場合、毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。

空冷用通風路

本パソコンは、性能を維持するために放熱用のファンを内蔵しています。放熱用ファンは、パソコン本体の外側と内側の間に空気の流れを作ってパソコン本体内部を冷却しているため、ご利用の環境によってはパソコン本体内部に周囲のほこりを取り込んでしまうことがあります。このほこりが徐々に蓄積していくと、パソコン本体が本来の性能を発揮できなくなる場合があります。この後の手順に従い、定期的に清掃してください。

重要

- ▶ 感電のおそれがありますので、清掃前には必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
- ▶ 清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。
- ▶ 次のことご注意ください。
 - ・洗剤は使用しないでください。
 - ・清掃時に破損した場合、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分ご注意ください。
 - ・ほこりを取り除くときは、プラスチック製のようじや歯間ブラシなどをお使いください。金属などの硬いものや、木製の折れやすいものなどを使うと故障の原因になります。
- ▶ パソコン本体内部は、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気によって破壊される場合があります。
パソコン本体内部のお手入れの前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

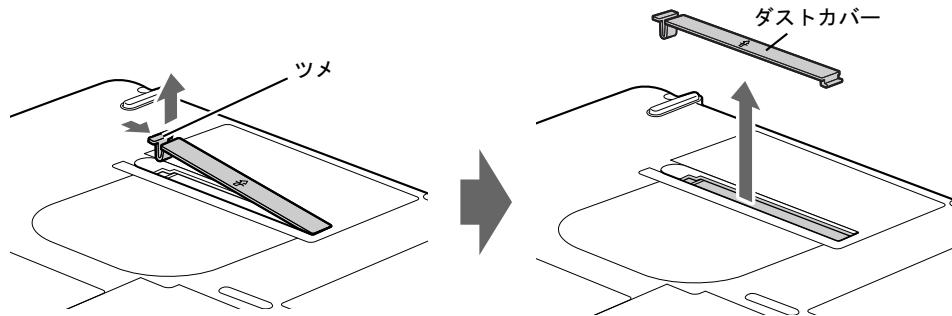
1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

液晶ディスプレイを閉じる場合は、ものなどをはさまないようにして静かに閉じてください。

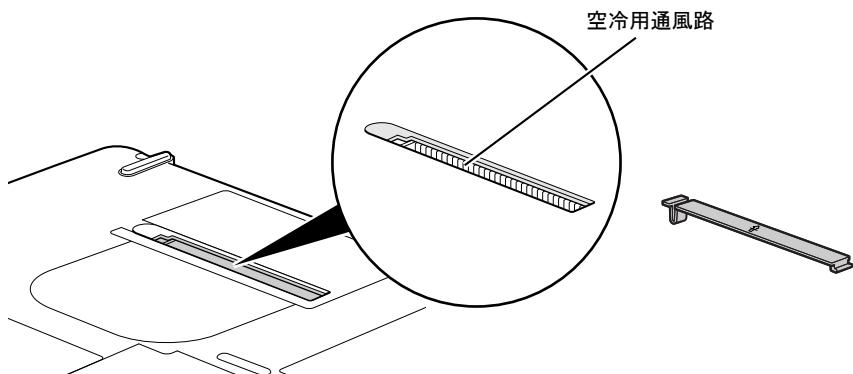
3 ダストカバーを取り外します。

ツメを矢印の方向に押しながら持ち上げ、ダストカバーを取り外します。



4 ダストカバーと空冷用通風路を清掃します。

ダストカバーと空冷用通風路のほこりを取り除いてください。

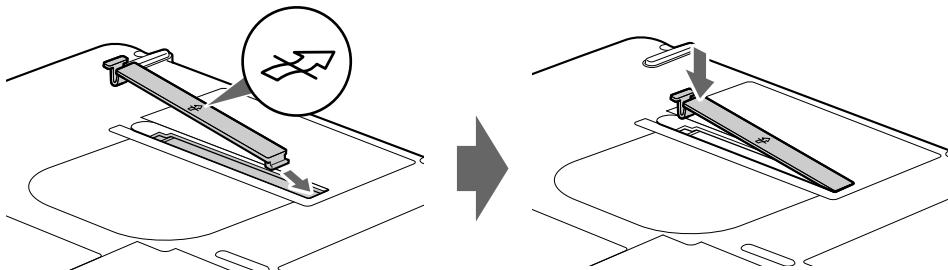


※ 重要

▶ 金属部分を傷付けないように注意してください。

5 ダストカバーを取り付けます。

矢印を本体外側に向けてダストカバーをツメのない側から差し込み、カチッと音がするまでしっかりとめ込みます。



※ 重要

▶ ダストキャッチャーを取り外したまま使用しないでください。取り外したまま使用すると、故障の原因となることがあります。

2 周辺機器のお手入れ

ここでは、カスタムメイドで選択した周辺機器のお手入れについて説明しています。

マウス

対象 USB マウスを選択した場合

マウスのお手入れのときは、マウスをパソコン本体から取り外してください。

表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。

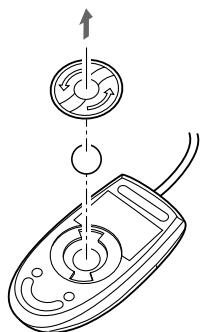
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。また、中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。拭き取るときは、マウス本体に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナーなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

■ USB マウス（ボール）のお手入れ

USB マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。なお、ボールの形状はお使いのマウスによって異なります。

1 マウスの裏ブタを取り外します。

マウスの底面にある裏ブタを、矢印の方向に回して取り外します。

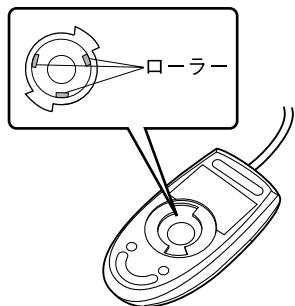


2 ボールを取り出して、水洗いします。

ボールを水洗いした後は、充分に乾燥させてください。

3 マウスの内部をクリーニングします。

マウスの内部と裏ブタを、水に浸して固く絞った布で拭きます。
ローラーは、綿棒で拭きます。



4 ボールと裏ブタを取り付けます。

ボールとマウスの内部を充分に乾燥させたら、ボールと裏ブタを取り付けます。

第8章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことが
あったときの対処方法について説明していま
す。

1	トラブル発生時の基本操作	140
2	よくあるトラブルと解決方法	143
3	それでも解決できないときは	160

1 トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

落ち着いて状況を確認する

トラブルが発生したときは、落ち着いて、直前に行った操作や現在のコンピューターの状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ 本パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本パソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？ またゆるんだりしていませんか？
 - 電源コンセント自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
 - OA タップを使用している場合、OA タップ自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
 - 使用する装置の電源スイッチはすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
 - キーボードの上にものを載せていませんか？
キーが押され、本パソコンが正常に動作しないことがあります。
- この他、「起動・終了時のトラブル」(→P.145) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

■ 以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いつたん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
 - ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。
- その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。

発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

トラブルシューティングで調べる

「よくあるトラブルと解決方法」(→ P.143) は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

インターネットで調べる

弊社の富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) では、本パソコンに関連したサポート情報やドライバーを提供しております。また、注意事項や補足情報を公開しています。解決方法がないかご覧ください。

診断プログラムを使用する

Windows が起動しなくなったときは、BIOS の起動メニューから診断プログラムを使用することで、パソコンの障害箇所を診断できます。

診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にお問い合わせのときにお知らせください。

診断時間は通常 5 ~ 10 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

重要

- ▶ BIOS の設定をご購入時の状態に戻してください。
診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOS をご購入時の状態に戻してください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。
- ▶ 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
USB メモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

1 本パソコンの電源を一度切り、再び電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Enter】キーを押します。
ポップアップメニューが表示されます。

POINT

- ▶ BIOS セットアップで「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」を使用する設定にした場合、パスワードを入力後（指紋を登録した場合は指紋認証後）、認証画面が消えた後、すぐに【Enter】キーを押してください。
- ▶ ポップアップメニューが表示されない場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。

3 【↓】キーを押して、「診断プログラム」を選択し、【Enter】キーを押します。
「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。

4 【Y】キーを押します。

ハードウェア診断が始まります。

ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にパソコンが再起動する場合があります。

5 次の操作を行います。

- トラブルが検出されなかった場合

【Enter】キーを押してください。本パソコンが再起動します。

- トラブルが検出された場合

画面に表示された内容をメモなどに控え、お問い合わせのときにお伝えください。

その後、キーボードの【Y】キーを押してパソコンの電源を切ってください。

リカバリを行う

トラブル発生時の基本操作をした後も回復しない場合には、リカバリを実行します。リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

サポートの窓口に相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「それでも解決できないときは」(→ P.160) をご覧になりサポートの窓口に相談してください。

2 よくあるトラブルと解決方法

トラブル一覧

■ 起動・終了時のトラブル

- 「電源が入らない」 (→ P.145)
- 「メッセージが表示された」 (→ P.145)
- 「ビープ音が鳴った」 (→ P.145)
- 「画面に何も表示されない」 (→ P.146)
- 「Windows が起動しない」 (→ P.147)
- 「ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない」 (→ P.147)
- 「Windows が動かなくなってしまい、電源が切れない」 (→ P.147)

■ Windows・ソフトウェア関連のトラブル

- 「Windows にログオンできない」 (→ P.148)
- 「プログラムが動かなくなってしまった」 (→ P.148)
- 「省電力機能が実行されない」 (→ P.148)
- 「周辺機器の動作が不安定になった」 (→ P.148)
- 「ログオン時に Windows 起動音が再生されるのが遅い」 (→ P.149)
- 「エラーメッセージが表示された」 (→ P.149)

■ ハードウェア関連のトラブル

□ 「インターフェースのご使用について」 (→ P.149)

□ BIOS

- 「管理者用パスワードを忘れてしまった」 (→ P.149)
- 「ユーザー用パスワードを忘れてしまった」 (→ P.150)
- 「エラーメッセージが表示された」 (→ P.150)
- 「BIOS セットアップが起動しなくなった」 (→ P.150)

□ メモリ

- 「仮想メモリが足りない」 (→ P.150)

□ 内蔵 LAN

- 「ネットワークに接続できない」 (→ P.151)
- 「ネットワークリソースに接続できない」 (→ P.151)
- 「1000BASE-T を使用しているが、速度が遅い」 (→ P.152)

□ デバイス

- 次の「機器が使用できない」(→ P.152)
 - ・ USB
 - ・ PC カード

□ PC カード

- 「PC カードが使えない」(→ P.152)

□ スマートカード

- 「スマートカードが使えない」(→ P.153)
- 「エラーメッセージが表示された」(→ P.153)

□ バッテリ

- 「状態表示 LED のバッテリ残量ランプが赤色に短い間隔で点滅している」(→ P.153)
- 「状態表示 LED のバッテリ充電ランプがオレンジ色に点滅している」(→ P.153)
- 「バッテリが充電されない」(→ P.154)

□ ディスプレイ

- 「画面に何も表示されない」(→ P.154)
- 「ディスプレイの表示が見にくい」(→ P.155)
- 「液晶ディスプレイが閉まらない」(→ P.155)
- 「表示が乱れる」(→ P.155)

□ サウンド

- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」(→ P.156)
- 「マイクからうまく録音ができない」(→ P.156)

□ キーボード

- 「押したキーと違う文字が入力される」(→ P.156)
- 「キーボード上に水や液体をこぼしてしまった」(→ P.157)

□ ポインティングデバイス

- 「マウスポインターが動かない」(→ P.157)
- 「マウスポインターが正しく動作しない」(→ P.157)
- 「ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない」(→ P.157)

□ USB

- 「USB デバイスが使えない」(→ P.158)
- 「USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認すると「!」が表示される」(→ P.158)

□ その他

- 「言語オプション選択で日本語以外を選択した後、起動しなくなった」(→ P.159)
- 「使用中の製品に関する最新情報を知りたい」(→ P.159)

起動・終了時のトラブル



電源が入らない

- ACアダプタは接続されていますか？

ご購入後最初にお使いになるときなど、バッテリが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してください。

- バッテリは充電されていますか？（バッテリ運用時）

バッテリ残量ランプで、バッテリの残量を確認してください。バッテリ残量ランプおよび確認方法については、「取り扱い」—「バッテリの残量や消耗状態を確認する」（→P.53）をご覧ください。

バッテリが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してお使いください。

- 電源スイッチのあるOAタップをお使いの場合、OAタップの電源は入っていますか？

- 長期間未使用状態ではありませんでしたか？

長期間お使いにならなかつた後でお使いになるときは、ACアダプタを接続してから電源を入れてください。

- ACアダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外してください。

ACアダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外して2～3分放置後、再び取り付けると問題が解決することがあります。



メッセージが表示された

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、「BIOS」—「BIOSが表示するメッセージ一覧」（→P.127）をご覧ください。



ビープ音が鳴った

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、ビープ音が鳴る場合があります。

ビープ音が鳴る原因と対処方法は、次のとおりです。

- ・ビープ音によるエラー通知は、「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」のように、1回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。ここでは、ビープ音の回数の組み合わせを、「1-2-2-3」のように表記しています。
- ・下表の組み合わせ以外の鳴り方をした場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ・メモリテストエラーの場合、画面には何も表示されません。

ビープ音の回数	原因と対処方法
1-1-1-1	メモリのテストエラーです。
1-3-3-1	メモリが正しく取り付けられていないか、本パソコンでサポートしていないメモリを取り付けている可能性があります。
1-3-3-2	メモリを正しく取り付けてあるか確認してください。正しく取り付けてもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。市販のメモリを増設している場合は、製造元・販売元に確認してください。
1-3-4-1	メモリを正しく取り付けてあるか確認してください。正しく取り付けてもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。市販のメモリを増設している場合は、製造元・販売元に確認してください。
1-3-4-3	メモリを正しく取り付けてあるか確認してください。正しく取り付けてもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。市販のメモリを増設している場合は、製造元・販売元に確認してください。
1-4-1-1	メモリを正しく取り付けてあるか確認してください。正しく取り付けてもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。市販のメモリを増設している場合は、製造元・販売元に確認してください。



画面に何も表示されない

● 電源ランプは点灯していますか？

- 点灯している場合

【Fn】 + 【F6】 キーまたは 【Fn】 + 【F7】 キーを押して明るさを調節してください。

- 点滅または消灯している場合

電源ボタンを押して動作状態にしてください。また、バッテリ運用時は、バッテリが充電されているか確認してください。充電されていないときには、ACアダプタを接続して充電してください。

ACアダプタをお使いになっている場合は、コンセント、およびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。

● 外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？

外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。

「取り扱い」 - 「表示するディスプレイを切り替える」 (→ P.70) をご覧になり、設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。

● 外部ディスプレイを使用している場合、次の項目を確認してください。

- パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？

- セットアップ前に、外部ディスプレイを接続していませんか？

必ずセットアップ後に接続してください。

- 「取り扱い」 - 「表示するディスプレイを切り替える」 (→ P.70)、または「取り扱い」 - 「マルチモニター機能」 (→ P.73) をご覧になり、設定を確認してください。

- 解像度や走査周波数は、外部ディスプレイにあった設定になっていますか？

そのまま 15 秒くらい待っても、液晶ディスプレイ表示に戻らない場合は、本パソコンを強制終了してください。

その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、液晶ディスプレイに表示されます。

「取り扱い」 - 「外部ディスプレイの走査周波数」 (→ P.75) をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してください。その後、「取り扱い」 - 「表示するディスプレイを切り替える」 (→ P.70) をご覧になり、設定を外部ディスプレイ表示に切り替えてください。



Windows が起動しない

- 周辺機器を取り付けませんでしたか？

いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください。（→ P.140）。

もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。

- 診断プログラムでパソコンの診断をしてください（→ P.141）。

診断結果をメモして、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- スマートカードホルダー添付機種で、スマートカードの作成や、BIOS ロック用パスワードを設定せずに BIOS セットアップを次のように設定しないでください。

Windows の起動ができなくなります。

・「セキュリティ」メニュー→「スマートカードによるロック」を「使用する」に設定する。

Windows が正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」または、ご購入元にお問い合わせください。



ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使って Windows を終了させることができます。

1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。

「スタート」メニューが表示されます。

2. 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「シャットダウン」を選択し、【Enter】キーを押して決定を行うことで Windows の終了操作を行います。

ポインティングデバイスが故障している場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。



Windows が動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順で Windows を終了させてください。



▶ 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。

1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。

「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示されます。

2. 「シャットダウン」をクリックします。

「Windows のシャットダウン」ウィンドウが表示されます。

3. 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。

この操作で強制終了されないときは、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れます。

Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。



Windowsにログオンできない

- 認証デバイスを忘れたり、紛失したり、破損したりして、Windowsにログオンできないときは、別売の「SMARTACCESS/Premium」のマニュアルをご覧ください。



プログラムが動かなくなってしまった

- 次の手順でプログラムを終了させてください。
 1. 【Ctrl】+【Shift】+【Esc】キーを押します。
「Windowsタスクマネージャー」ウィンドウが表示されます。
 2. 「アプリケーション」タブをクリックします。
 3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。

「Windowsタスクマネージャー」ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックして、ウィンドウを閉じます。



▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。



省電力機能が実行されない

- 電源オプションの設定を確認してください。
省電力機能について、詳しくは「取り扱い」-「スタンバイ」(→P.83)をご覧ください。



周辺機器の動作が不安定になった

- なんらかの理由でドライバーが削除されているか破損している場合があります。
ドライバーを再インストールしてください。



ログオン時に Windows 起動音が再生されるのが遅い

- DHCP より IP アドレスが取得されていない可能性があります。
ネットワーク環境をご確認ください。



エラーメッセージが表示された

- 初めて電源を入れ、システムが初期設定をしているときに、電源を切ったりしませんでしたか？

保護管理ツール起動時に、「関数 EwfMgrGetProtectedVolumeConfig でエラー（00000001）が発生しました」のエラーメッセージが表示された場合、初期設定が完了する前に電源が切れてしまったと考えられます。

この場合はリカバリを実行してください。リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

ハードウェア関連のトラブル

■ インターフェースのご使用について

- 本パソコンでは、あらゆる周辺機器の動作を保証するものではありません。ご使用になる周辺機器については、ご購入元をご確認ください。
- 指紋センサーをお使いになる場合は、別売の「Secure Login Box」、および「SMARTACCESS/Premium」のライセンスが必要です。
- 手のひら静脈認証をお使いになる場合は、別売の「Secure Login Box」、「手のひら静脈センター」、および「SMARTACCESS/Premium」のライセンスが必要です。
- スマートカードをお使いになる場合は、「SMARTACCESS/Premium」のライセンスが必要です。

■ BIOS



管理者用パスワードを忘れてしまった

- 管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかるわらず修理は有償となります。



ユーザー用パスワードを忘れてしまった

- ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。パソコンの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。
パスワードの設定方法については、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.123)をご覧ください。



エラーメッセージが表示された

- パソコン本体起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。
エラーメッセージの内容と意味については、「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」(→ P.127)をご覧ください。



BIOS セットアップが起動しなくなった

- スマートカードホルダー添付機種で、スマートカードの作成や、BIOS ロック用パスワードを設定せずに BIOS セットアップを次のように設定すると、BIOS セットアップの起動ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので、ご購入元にご連絡ください。
 - ・「セキュリティ」メニュー→「スマートカードによるロック」を「使用する」に設定する。

■ メモリ



仮想メモリが足りない

- 本パソコンを再起動してください。
なお、本パソコンのシステムはページングファイルを作成できません。
容量の大きいソフトウェアをお使いになる場合は、メモリを追加してください。
メモリの追加については、「周辺機器の設置／設定／増設」－「メモリ」(→ P.93)をご覧ください。

■ 内蔵 LAN



ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
パソコン本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・使用するネットワーク環境にあったケーブルをお使いください。
- 無線 LAN 設定が正しく設定されていますか？
無線 LAN と有線 LAN で、同じ設定にはできません。
必要に応じて、再度設定などを確認してください。詳しくは、「取り扱い」 - 「無線 LAN」（→ P.82）をご覧ください。
- TCP/IP プロトコルをお使いの場合は、コマンドプロンプトで次のように入力し、「Reply from ~」という応答が表示されるか確認してください。

```
ping nnn.nnn.nnn.nnn
```

(nnn には通信相手の IP アドレスを入力します)
- ハブに関して、次の項目を確認してください。
 - ・電源は入っていますか？
 - ・ACT/LNK ランプは点灯していますか？
 - ・Speed (1000Mbps/100Mbps/10Mbps/Auto)、Duplex (Full/Half/Auto) の設定は、パソコン側の設定とありますか？
- 画面右下の通知領域に LAN の接続状況が表示されますので、確認してください。
- 省電力状態（スタンバイ）にしませんでしたか？
LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、省電力状態（スタンバイ）にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。設定方法については、「取り扱い」 - 「スタンバイ」（→ P.83）をご覧ください。



ネットワークリソースに接続できない

- 各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。
 - ・お使いのネットワークに適したコンポーネント（クライアント／サービス／プロトコル）をインストールしていますか？
 - ・各コンポーネントの設定は、正しいですか？
 - ・サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
 - ・サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
 - ・サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？



1000BASE-T を使用しているが、速度が遅い

- LAN デバイスで速度は正しく設定されていますか？
- お使いのネットワークケーブルやハブは 1000BASE-T に対応していますか？
- 通信相手の機器は 1000BASE-T に対応していますか？
- ネットワーク機器の電源をオンにしてから本パソコンの電源を入れてください。また、本パソコンをご使用中に LAN ケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。

ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度がおかしくなったりする場合があります。

例：1Gbps で通信していたのに 10Mbps の速度になる

ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、および LAN ケーブルで本パソコンとネットワーク機器が接続されていることを確認後、パソコン本体を再起動してください。

■ デバイス



機器が使用できない

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？

次の機器を搭載した機種で、次の機器が使用できない場合は、システム管理者に「Portshutter」のポート設定が有効になっているか確認してください。

情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。

- USB
- PC カード

■ PC カード



PC カードが使えない

- PC カードスロットに正しくセットされていますか？

PC カードが正しくセットされているか確認してください。

- PC カードのドライバーはインストールされていますか？

Windows にあらかじめ登録されていない PC カードの場合は、PC カードに添付されているドライバー（各 OS に対応したもの）をインストールする必要があります。PC カードに添付されているマニュアルをご覧ください。

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→ P.152）

■ スマートカード



スマートカードが使えない

対象 スマートカードホルダー添付機種

- スマートカードがスマートカードホルダーに正しくセットされていますか？
スマートカードは、専用のスマートカードホルダーにセットしてお使いください。
- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.152）



エラーメッセージが表示された

対象 スマートカードホルダー添付機種

- スマートカード使用時にエラーメッセージが表示された場合は、「BIOS」（→P.107）をご覧ください。

■ バッテリ



状態表示 LED のバッテリ残量ランプが赤色に短い間隔で点滅している

- バッテリは正しく取り付けられていますか？

バッテリが正しく充電できないことを示します。パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも赤色に点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。バッテリパックの交換については、「取り扱い－「内蔵バッテリパックを交換する」（→P.56）をご覧ください。



状態表示 LED のバッテリ充電ランプがオレンジ色に点滅している

- バッテリ運用直後ではありませんか？

バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、保護機能が働いてバッテリ充電ランプがオレンジ点滅することがあります。しばらくして、バッテリの温度が低下し、正常な温度に戻ると、そのときのバッテリ残量を表示します。



バッテリが充電されない

- ACアダプタは接続されていますか？

ACアダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。

- バッテリが熱くなっていますか？

状態表示LEDのバッテリ充電ランプがオレンジ点滅します。

周囲の温度が高いときや使用中にバッテリの温度が上昇すると、バッテリの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。

- パソコン本体が冷えていませんか？

状態表示LEDのバッテリ充電ランプがオレンジ点滅します。

バッテリの温度が5°C以下になっていると、バッテリの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。

- 充電を途中で中断させていませんか？

充電を始めてから、バッテリの充電が完了するまでの間に本パソコンを使用したり、ACアダプタを取り外したりすると、バッテリの特性により充電が不完全に終わることがあります。この場合は、本パソコンをしばらくの間バッテリで稼働させ、バッテリ残量が89%以下になってから充電してください。また、いったん充電を開始したら、バッテリの充電が完了するまでACアダプタを接続したまま充電を終わらせてください。

■ ディスプレイ



画面に何も表示されない

- 「起動・終了時のトラブル」(→P.145)の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。

- キーを操作していましたか？

本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間キーを押さないとCPUが停止したり、液晶ディスプレイのバックライトが消灯したりします(何かキーを押すとバックライトが点灯します)。頻繁に停止してしまうときは、「電源オプション」ウィンドウまたは「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで省電力の設定を変更してください。

詳しくは「取り扱い」-「スタンバイ」(→P.83)をご覧ください。



ディスプレイの表示が見にくい

- ディスプレイは見やすい角度になっていますか？

ディスプレイの角度を調節してください。

- 明るさなどを調節しましたか？

「取り扱い」—「液晶ディスプレイの明るさを変更する」(→ P.62)をご覧になり、明るさを調節してください。



液晶ディスプレイが閉まらない

- 間にものがはさまっていませんか？

無理に閉めようすると液晶ディスプレイに傷を付けることがあります。ものがはさまっていないか確認してください。また、クリップなどの金属製品がキーのすき間などに入ると、故障の原因になります。



表示が乱れる

- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。

1. ウィンドウの右上有る「最小化」をクリックし、ソフトウェアを最小化します。
2. タスクバーに最小化されたソフトウェアのボタンをクリックします。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがあります、動作上は問題ありません。

- ・ Windows 起動時および画面の切り替え時
- ・ DirectX を使用した一部のソフトウェア使用時

- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものはありませんか？

強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください。

- 外部ディスプレイに出力していますか？

外部ディスプレイによっては、対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、設定を変更してください (→ P.75)。

■ サウンド



スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。
 - ・スピーカーの出力はONになっていますか？
 - 【Fn】+【F3】キーを押して、スピーカーの出力を確認してください。
 - ・音量は正しく調節されていますか？
 - 【Fn】+【F8】キーまたは【Fn】+【F9】キーを押して、適正な音量にしてください。
- 音量を設定するウィンドウで、ミュートや音量などを確認してください。
詳しくは、「取り扱い」-「音量」(→P.77)をご覧ください。
- 音が割れる場合は、音量を小さくしてください。



マイクからうまく録音ができない

- 音量は調節されていますか？
音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、「取り扱い」-「音量」(→P.77)をご覧ください。

■ キーボード



押したキーと違う文字が入力される

- 【Caps Lock】キーと【Num Lk】キー、Windowsに搭載されているスクリーンキーボードなど画面上で使用するソフトウェアキーボードの【Caps】キー、パソコンに接続したUSBキーボードの【Caps Lock】キーと【Num Lock】キーなどが有効になってしまいませんか？
状態表示LEDのNum LockランプやCaps Lockランプが点灯していないか確認してください。
- 「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？
次の手順で確認してください。
 1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「キーボード」をダブルクリックします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。
 4. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。



キーボード上に水や液体をこぼしてしまった

- キーボード上に水などの液体がこぼれてしまった場合は、すぐにパソコン本体の電源を切り、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。
また、キーボード上の液体は、パソコンを水平にしたまま、乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。
液体を拭き取った後、バッテリパックを外してください。
その後必ず、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」に点検を依頼してください。

■ ポインティングデバイス



マウスポインターが動かない

- マウスは正しく接続されていますか？
- ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？(USBマウス(光学式)およびUSB小型マウス(レーザー式)以外の場合)
マウス内部をクリーニングしてください。
- オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？(USBマウス(光学式)およびUSB小型マウス(レーザー式)の場合)
オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。



マウスポインターが正しく動作しない

対象 USBマウス(光学式)、USB小型マウス(レーザー式)

- 次のようなものの上で操作していませんか？
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの(木目調など)
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの



ポインティングデバイスが使えないため、Windowsを終了できない

- キーボードを使用してWindowsを終了してください(→P.147)。

■ USB



USB デバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- USB デバイスが USB ハブを経由して接続されませんか？
USB ハブを経由すると問題が発生する場合があります。USB デバイスを本体の USB コネクタに直接接続してみてください。
- USB デバイスに不具合はありませんか？
USB デバイスに不具合がある場合、Windows が正常に動作しなくなることがあります。
パソコンを再起動して、USB デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USB デバイスのご購入元にご連絡ください。
- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？(→ P.152)



USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認すると「!」が表示される

- デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？
必要なドライバーをインストールしてください。
- 外部から電源をとらない USB デバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？
次の手順で USB コネクタの電力使用状況を確認してください。
 1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「システム」をダブルクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」をダブルクリックし、「USB ルートハブ」をダブルクリックします。
「USB ルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 5. 「電力」タブをクリックし、USB バスの電力使用状況がデバイスマネージャで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。
 6. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

■ その他



言語オプション選択で日本語以外を選択した後、起動しなくなった

- 本パソコンでは、日本語のみの対応となります。
詳しくは、「特長」－「言語オプションの選択」(→ P.15) をご覧ください。
言語オプション変更後に、本パソコンが起動しなくなった場合はリカバリを実行します。リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。



使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社の富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) で公開しています。必要に応じてご覧ください。

3 それでも解決できないときは

お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなどと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本パソコンに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。

電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください。

- ソフトウェア（カスタムメイド）
各ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

第9章

仕様一覧／技術情報

仕様やコネクタピン配置などを記載しています。

1 本体仕様	162
2 その他の仕様	165

1 本体仕様

TC8390

製品名称		FMV-TC8390
CPU ^{注1}		インテル® Celeron® プロセッサー 900 2.20GHz
キャッシュメモリ		2 次 : 1MB (CPU 内蔵)
チップセット		モバイル インテル® GL40 Express チップセット
システムバスクロック		800MHz
メインメモリ		標準 1GB (1GB × 1) ^{注2} (DDR3 SDRAM/PC3-6400) ECC なし最大 2GB ^{注3}
メモリスロット		×2 (空きメモリスロット ×1) ^{注4}
表示機能	グラフィックアクセラレータ	チップセットに内蔵
表示機能	ビデオメモリ	最大 512MB (メインメモリと共用) ^{注5}
表示機能	液晶ディスプレイ ^{注6}	LED バックライト付 15.6 型ワイド TFT カラー 1366×768 ドット
表示機能	解像度／発色数 ^{注7}	液晶ディスプレイ表示 : 1366×768 ドット / 1677 万色 外部ディスプレイ表示 : 最大 1920×1200 ドット / 最大 1677 万色
オーディオ機能	オーディオコントローラー	チップセット内蔵 + High Definition Audio コーデック
オーディオ機能	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数、最大 192kHz、24 ビット (再生時) ^{注8} 、 サンプリング周波数、最大 96kHz、16 ビット (録音時) ^{注8} 、 同時録音再生機能
オーディオ機能	MIDI 再生機能	ご使用できません
オーディオ機能	スピーカー	ステレオスピーカー内蔵
キーボード		日本語キーボード (キーピッチ約 19mm、キーストローク約 3mm、87 キー、JIS 配列準拠)
ポインティングデバイス ^{注9}		フラットポイント
通信機能	LAN	1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T 準拠、Wake up on LAN 対応 ^{注10}
通信機能	無線 LAN ^{注11}	IEEE 802.11a 準拠、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠、 (5GHz 帯チャンネル : W52/W53/W56) (Wi-Fi® 準拠) ^{注12}
セキュリティ機能	内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式 ^{注13}
セキュリティ機能	指紋センサー ^{注11}	スライド方式
セキュリティ機能	スマートカード ^{注11}	スマートカード + PC カード型スマートカードホルダー
セキュリティ機能	盗難防止用ロック取り付け穴	あり
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I/II×1 スロット (CardBus 対応)
インターフェース	外部ディスプレイ	アナログ RGB ミニ D-SUB15 ピン ×1
インターフェース	USB ^{注14}	USB2.0 準拠 ×4 (右側面 ×1、背面 ×3)
インターフェース	LAN	RJ-45×1
インターフェース	オーディオ	マイク・ラインイン兼用 ^{注15} : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (入力 : 100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 1kΩ 以上 (DC) 2kΩ 以上)、 ヘッドホン・ラインアウト兼用 ^{注16} : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (出力 : 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω)
インターフェース	状態表示	LED

製品名称		FMV-TC8390
電源供給方式	AC アダプタ ^{注17} バッテリ ^{注18}	入力 AC100V ~ 240V、出力 DC19V (3.16A) 標準バッテリパック：リチウムイオン10.8V / 2000mAh 大容量バッテリパック：リチウムイオン10.8V / 5200mAh
バッテリ稼働時間 (JEITA 測定法 1.0) ^{注19}		約 1.1 時間 (標準) / 約 3.5 時間 (大容量)
バッテリ充電時間 ^{注20}		約 2.0 時間 (標準) / 約 4.0 時間 (大容量)
消費電力 ^{注21}		約 20W / 約 65W
電波障害対策		VCCI クラス B
外形寸法 (突起部含まず)		W372xD260xH39.7 ~ 43.5mm
質量		約 2.7kg (標準) ^{注22}
温湿度条件		温度 5 ~ 35 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (動作時) 温度 -10 ~ 60 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)
プレインストール OS		Windows® Embedded Standard

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注について

注 1 : ソフトウェアによっては、CPU 名表記が異なる場合があります。

注 2 : カスタムメイドの選択によっては、2GB の場合もあります。

注 3 : 搭載されるメモリは PC3-8500 ですが、PC3-6400 として動作します。

注 4 : カスタムメイドの選択によっては、空きメモリスロットがない場合もあります。

注 5 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) により、パソコンの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。

・メインメモリ 1GB の場合：最大 512MB

・メインメモリ 2GB の場合：最大 1024MB

注 6 : 以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。

・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプションのプロパティ」ウインドウから行えます。また、スクリーンセーバーの設定については、Windows のヘルプをご覧ください。

・表示する条件によってはムラおよび微少なほん点が目立つことがあります。

注 7 : ① グラフィックスアクセラレータがに出力する最大発色数は 1677 万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
② 外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。

注 8 : 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。

注 9 : カスタムメイドの選択によって、USB マウス、USB マウス（光学式）または USB 小型マウス（レーザー式）のいずれかが添付されています。

注 10 : ① 1000Mbps は 1000BASE-T の理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
② 1000Mbps の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したハブが必要となります。また、LAN ケーブルには、1000BASE-T に対応したエンハンスドカテゴリ 5（カテゴリ 5E）以上の LAN ケーブルを使用してください。

③ 1000Mbps のネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wake up on LAN 機能はご使用になれません。

④ Wake up on LAN 機能はご購入時の設定では使用できません。使用する場合は、BIOS セットアップで設定を変更してください。

注 11 : カスタムメイドの選択によって搭載されています。

注 12 : Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。

注 13 : IEEE 802.11n 準拠を使用したときは、MIMO 方式になります。

注 14 : ① すべての USB 対応周辺機器について動作保証するものではありません。

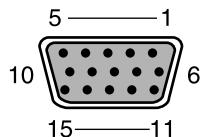
② 外部から電源をとらない USB 機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1 ポートにつき 500mA です。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご覧ください。

- 注 15：・お使いの仮想化ソリューションにより対応状況が異なります。詳しくはそれぞれの仮想化ソリューションのマニュアルをご覧ください。
- ・ご購入時は「マイク」に設定されています。OS 上で設定を変更することにより、ラインイン端子として使用することもできます。ラインイン端子として使用する場合には、次の仕様となります。
(入力：1V 以下、入カインピーダンス 10kΩ 以上)
- 注 16：ご購入時は「ヘッドホン」に設定されています。OS 上で設定を変更することにより、ラインアウト端子として使用することもできます。ラインアウト端子として使用する場合には、次の仕様となります。
(出力：1V 以上、負荷インピーダンス 10kΩ 以上)
- 注 17：矩形波が高出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用 DC/AC 電源など）に接続されると故障する場合があります。
- 注 18：カスタムメイドの選択により、標準バッテリか大容量バッテリのいずれかが搭載されています。
- 注 19：社団法人電子情報技術産業協会の「JEITA バッテリ動作時間測定法（Ver1.0）」(<http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html>)。
なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。
- 注 20：・電源 OFF 時および省電力状態時。装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。
・バッテリーユーティリティで「80%充電モード」に設定した場合の充電時間は異なります。
- 注 21：・動作時の最小消費電力（Windows 起動直後の消費電力）／最大消費電力です。
また、AC アダプタ運用時の消費電力です。
・電源 OFF 時の消費電力は、約 1W 以下（満充電時）です。
なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 注 22：カスタムメイドで無線 LAN を選択した場合は約 10g、大容量バッテリパックを選択した場合は約 100g 増加します。

2 その他の仕様

コネクタのピン配列と信号名

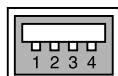
■ 外部ディスプレイコネクタ (ミニ D-SUB15 ピン、メス)



ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5 ~ 8	GND	—	グランド
9	+5V	—	電源注
10	GND	—	グランド
11	NC	—	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

注 : MAX 300mA

■ USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	— DATA	入出力	—データ信号
3	+ DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グランド

国際エネルギースターープログラム

「国際エネルギースターープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。

国際エネルギースターープログラム対応モデルは、ご購入時の状態で国際エネルギースターープログラムの出荷要件を満たしています。

ご購入時の主な設定は、次のようになっています。

- 電源オプション

- モニタの電源を切る：15分
- システムスタンバイ：20分

- Wakeup on LAN 機能：無効

Wakeup on LAN 機能を有効にする方法については、「取り扱い」－「スタンバイ」(→ P.83)をご覧ください。

索引

A

Atheros Client Utility 102

B

BIOS セットアップ

 一起動 BIOS 109
 一終了 113

 一パスワード 123

BIOS パスワード 16

C

Caps Lock ランプ 32
Citrix Desktop Receiver 101

D

DC-IN コネクタ 26

F

FMV サポートナビ 102
Fujitsu Display Manager 103

I

IndicatorUtility 103
Internet Explorer 15, 101

L

LAN 81

LAN コネクタ 28

LAN 着信によるレジューム 86

M

Microsoft IME スタンダード 2002 101

N

Num Lock ランプ 31

P

PC カードスロット 27, 58
PC カード取り出しボタン 27
Portshutter 17, 102

S

Scroll Lock ランプ 32
SMARTACCESS/Premium 102
Support ボタン 23

U

USB コネクタ 26, 29, 165

V

VMware View Client 101

W

Wakeup on LAN 86
Windows Embedded Standard 14, 101
Windows Media Player 101

あ行

インストール 104
液晶ディスプレイ 22, 62
 一明るさ変更 62
 一お手入れ 134
 一切り替え 65
お手入れ
 一キーボード 135
 一空冷用通風路 135
 一ディスプレイ 134
 一パソコン本体 134
 一マウス 137
音量設定 77

か行

解像度	63
外部ディスプレイ	66
ー走査周波数	75
外部ディスプレイコネクタ	29, 165
管理者用パスワード	123
キーボード	23, 45
ーお手入れ	135
起動メニュー	121
吸気孔	30
言語オプション	15
国際エネルギースタープログラム	166
コネクタのピン配列と信号名	165

さ行

システムメニュー	116
指紋センサー	17, 23
周辺機器	92
終了メニュー	122
詳細メニュー	117
状態表示 LED	23, 31
省電力モード	89
省電力ユーティリティ	103
情報表示ツール	102
情報メニュー	115
診断プログラム	141
スタンバイ	83
スピーカー	23
スマートカードリーダー／ライター	18
静脈センサー	18
セキュリティメニュー	119
全画面表示と通常表示の切り替え	65

た行

ダストカバー	30
ディスプレイ	22, 62
ー明るさ変更	62
ーお手入れ	134
ー切り替え	70
テンキーボード	49
テンキーモード	48
電源ボタン	23
盗難防止用ロック取り付け穴	19, 29
取り付け	
ーメモリ	93

な行

内蔵バッテリパック	30
内蔵フラッシュメモリ	13
内蔵フラッシュメモリアクセス	
ーランプ	31
内蔵無線 LAN アンテナ	24

は行

排気孔	28
パスワード (Windows)	15
パスワード (BIOS)	16
ー削除	126
ー種類	123
ー設定	123
ー使う	124
ー変更	125
ー忘れた場合	125
パソコン本体のお手入れ	134
発色数	63
バッテリ	50
ー温度アラーム	52
ー交換	56
ー寿命を延ばす	55
バッテリーユーティリティ	103
バッテリ残量ランプ	31, 53
バッテリ充電ランプ	31, 52
フラットポイント	23, 37
ヘッドホン・ラインアウト兼用端子	25
ー切り替え	80
ポインティングデバイス	37
保護管理ツール	34, 102
ー確認	34
ー起動	34
ー変更	35

ま行

マイク・ラインイン兼用端子	26
ー切り替え	80
マウス	40
ーお手入れ	137
ー接続	41
ー使い方	42
マルチモニター機能	73
ー設定	74
無線 LAN	16, 82
メッセージ (BIOS)	127

メモリ	93
ー取り付け	94
メモリスロット	30

や行

ユーザー アカウント	14
ユーザー用 パスワード	123

ら行

ラッチ	24
リモートデスクトップ接続	102
レジューム	85

わ行

ワイヤレススイッチ	25
ワンタッチボタン設定	102

Memo

FMV-TC8390

製品ガイド
B6FJ-3161-01-01

発行日 2009年11月
発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。